

【文学部フランス語圏文化学科】

講義コード	講義科目名(正式)	副題	単位	講義期間	担当教員名(代表者のみ)	備考
U360100101	○基礎演習ⅠA		4	通年	鈴木 雅生	週2回
U360100102	○基礎演習ⅠB		4	通年	田上 竜也	週2回
U360100103	○基礎演習ⅠC		4	通年	大野 麻奈子	週2回
U360101101	○基礎演習ⅡA	フランス語読解と時事フランス語	4	通年	中条 省平	週2回
					一丸 禎子	週2回
U360101102	○基礎演習ⅡB		4	通年	野村 正人	週2回
					川口 覚子	週2回
U360101103	○基礎演習ⅡC		4	通年	志々見 剛	週2回
					中山 慎太郎	週2回
U360102101	フランス語演習A	Traduire en français	4	通年	MARE, Thierry	
U360102102	フランス語演習B	Traduire en français	4	通年	MARE, Thierry	
U360103101	ゼミナールA	アンドレ・ジイド研究	4	通年	鈴木 雅生	
U360103102	ゼミナールB	文学と建築	4	通年	田上 竜也	
U360103103	ゼミナールC	アルノー・デブレシャン研究	4	通年	野村 正人	
U360103104	ゼミナールD	フランス映画史研究	4	通年	中条 省平	
U360103105	ゼミナールE	翻訳道場	4	通年	堀内 ゆかり	
U360103106	ゼミナールF	“Ruy Blas” de Victor Hugo	4	通年	MARE, Thierry	
U360103107	ゼミナールG	19世紀の詩	4	通年	吉田 加南子	
U360103108	ゼミナールH		4	通年	大野 麻奈子	
U360103109	ゼミナールI	ラブレー研究	4	通年	志々見 剛	
U360106101	卒業演習A	聖書と絵画		通年	鈴木 雅生	
U360106102	卒業演習B			通年	田上 竜也	
U360106103	卒業演習C			通年	野村 正人	
U360106104	卒業演習D	フランス暗黒小説読解		通年	中条 省平	
U360106105	卒業演習E	シュルレアリスム演習		通年	吉田 加南子	
U360106106	卒業演習F	『危険な関係』を読む		通年	志々見 剛	
U360200101	フランス語圏文化入門(言語・翻訳)		4	通年	中尾 和美	
U360201101	フランス語圏文化入門(舞台・映像)		4	通年	彦江 智弘	
U360202101	フランス語圏文化入門(広域文化)		4	通年	澁谷 与文	
U360203101	フランス語圏文化入門(文学・思想)	フランス文学の歴史	4	通年	中山 慎太郎	
U360204101	フランス語圏文化講義(言語・翻訳)		4	通年	寺家村 博	
U360205101	フランス語圏文化講義(舞台・映像)	フランス映画概説	4	通年	中条 省平	
U360206101	フランス語圏文化講義(広域文化)A		4	通年	野村 正人	
U360206102	フランス語圏文化講義(広域文化)B	フランスと東アジア、文化関係史	4	通年	菅野 賢治	
U360207101	フランス語圏文化講義(文学・思想)	20世紀フランス小説の素晴らしき三つの冒険	4	通年	三ツ堀 広一郎	
U360208101	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)A	プレシウーズ研究	4	通年	志々見 剛	注1)
U360208102	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)B		4	通年	横川 晶子	注1)
U3602081Z1	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)		4	通年	DEMARNE, Marguerite	

【文学部フランス語圏文化学科】

講義コード	講義科目名(正式)	副題	単位	講義期間	担当教員名(代表者のみ)	備考
U3602081Z2	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)		4	通年	中尾 和美	
U360209101	フランス語圏文化演習(舞台・映像)A	ヌーヴェル・ヴァーグとその前後	4	通年	大原 宣久	
U360209102	フランス語圏文化演習(舞台・映像)B	ラシーヌ『フェードル』を読む	4	通年	畠山 香奈	
U3602091Z1	◇フランス語圏文化演習(舞台・映像)	フェドーからベケットへ	4	通年	大野 麻奈子	
U360210101	フランス語圏文化演習(広域文化)A	写真と文学	4	通年	滝沢 明子	
U360210102	フランス語圏文化演習(広域文化)B	文学の旅 アフリカ・カリブ編	4	通年	中村 隆之	
U360210103	フランス語圏文化演習(広域文化)C	20世紀フランス文化史	4	通年	飛嶋 隆信	
U360211101	フランス語圏文化演習(文学・思想)A	20世紀の詩	4	通年	吉田 加南子	
U360211102	フランス語圏文化演習(文学・思想)B	ヴォルテールの『寛容論』を読む	4	通年	土橋 友梨子	
U360211103	フランス語圏文化演習(文学・思想)C		4	通年	前山 悠	
U3602111Z1	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)	マルセル・ブルースト研究	4	通年	鈴木 雅生	
U3602111Z2	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)	Théâtre de Paul Claudel (4)	4	通年	MARE, Thierry	
U360302101	文献調査演習	Recherches en français.	4	通年	CARTON, Martine	
U360303101	フランス語実習A	TOF受験に向けて:基礎から実践へ	4	通年	大野 麻奈子	
U360303102	フランス語実習B	Ecrire un résumé en français	4	通年	CARTON, Martine	
U360303103	フランス語実習C	TOF 試験準備実習	4	通年	川口 寛子	
U360300101	論文指導演習A		2	第1学期	横川 晶子	注2)
U360300102	論文指導演習B		2	第2学期	横川 晶子	注3)
U360104101	卒業論文(フランス語圏文化学科)		12	集中(通年)	野村 正人	
U360105101	卒業翻訳(フランス語圏文化学科)		12	集中(通年)	野村 正人	
U360106107	卒業演習(フランス語圏文化学科)		12	集中(通年)	野村 正人	

◇印は大学院授業科目であるが、学部の授業科目として履修することができる。

注1)他学科学生が履修した場合、「外国語講読」の単位となる。

注2)主に卒業論文、卒業翻訳、卒業演習を履修する資格がある学生を対象とする。「論文指導演習B」との重複履修は不可。また、平成26年度以前に「論文指導演習(4単位)」の単位を修得した者の履修は認めない。

注3)主に3年次の学生を対象とする。「論文指導演習A」との重複履修は不可。また、平成26年度以前に「論文指導演習(4単位)」の単位を修得した者の履修は認めない。

課程	学部
講義コード	U360100101
科目ナンバリング	036A101
科目名	○基礎演習 I A
英文科目名	Practical works on the basic French language, I
担当者名	鈴木 雅生
単位	4
時間割	通年 火曜日 2時限 西1-308.通年 木曜日 2時限 西1-308
副題	

授業概要

週2回、1年間でフランス語の基礎を学ぶ。

到達目標

フランス語読解のための文法を習得し、基本的なフランス語のテキストを読むことができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	文字と発音
第3回	Leçon 1 (1): 名詞の性・数、冠詞、形容詞、提示表現
第4回	Leçon 1 (2): 人称代名詞1、第一群規則動詞、否定文1
第5回	Leçon 2 (1): être、avoir、否定文2
第6回	Leçon 2 (2): 疑問文、指示形容詞、所有形容詞
第7回	Leçon 3 (1): 第二群規則動詞、縮約、aller、venir
第8回	Leçon 3 (2): 近接未来、近接過去、疑問代名詞1、疑問形容詞、疑問副詞
第9回	Leçon 4 (1): 形容詞・名詞の複数形・女性形、形容詞の位置
第10回	Leçon 4 (2): 比較級・最上級、人称代名詞強勢形
第11回	Leçon 5 (1): 複合過去、関係代名詞1
第12回	Leçon 5 (2): 強調構文、受動態、命令法
第13回	Leçon 6 (1): 人称代名詞の目的補語
第14回	Leçon 6 (2): 準助動詞、指示代名詞、所有代名詞
第15回	理解度の確認
第16回	Leçon 7 (1): 代名動詞

第17回	Leçon 7 (2): 中性代名詞
第18回	Leçon 8 (1): 半過去、大過去、時制の一致1
第19回	Leçon 8 (2): 疑問代名詞2、関係代名詞2
第20回	Leçon 9 (1): 単純未来、前未来
第21回	Leçon 9 (2): 非人称構文、不定代名詞・不定形容詞
第22回	Leçon 10 (1): 条件法現在、条件法過去、時制の一致2
第23回	Leçon 10 (2): 知覚動詞、放任動詞、使役動詞
第24回	Leçon 11 (1): 直接話法と間接話法
第25回	Leçon 11 (2): 現在分詞、ジェロンディフ、感嘆文
第26回	Leçon 12 (1): 接続法現在、接続法過去
第27回	Leçon 12 (2): 接続法の用法
第28回	補遺: 単純過去、前過去
第29回	補遺: 接続法半過去、接続法大過去、条件法過去第2形、自由間接話法
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

授業方法

文法事項の説明をした後、練習問題をやる。また小テストを頻繁に行う。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

授業前には指示した個所の問題をやっておくこと。授業後は、その日に学んだ文法事項、単語、表現などを復習し、疑問点があれば次回の授業で質問すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テストの答えは返却し、授業内で解説を行う。

教科書

グラメール・フランセーズ,学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2018

教科書コメント

参考文献

参考文献コメント

辞書、参考書など、教室で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

予習・復習を欠かさないこと。

課程	学部
講義コード	U360100102
科目ナンバリング	036A101
科目名	○基礎演習 I B
英文科目名	Practical works on the basic French language, I
担当者名	田上 竜也
単位	4
時間割	通年 火曜日 2時限 西1-309.通年 木曜日 2時限 西1-309
副題	

授業概要

週2回、1年間でフランス語の発音と基礎文法を学ぶ。

到達目標

フランス語の基礎文法をひとつおろ学び、辞書を使って簡単なテキストが読解できる力を身に着ける。

授業内容

実施回	内容
第1回	一般的注意。辞書、参考文献などの指示。アルファベ。発音の基礎
第2回	発音の続き。綴り字の読み方
第3回	教科書の内容に即した文法学習。練習問題
第4回	同上
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	前期のまとめ
第16回	教科書の内容に即した文法学習、練習問題

第17回	同上
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	以下、フランス語の簡単なテキストを読む
第22回	同上
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	後期のまとめ

授業計画コメント

授業進度は、学習者の理解度にあわせて調節する

授業方法

文法説明を講義形式で行い、宿題や演習は指名して担当してもらおう。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

事前に当該箇所を読み、下調べをすること。また必ず復習もすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	25 %	
学年末試験(第2学期)	25 %	
中間テスト	0 %	
レポート	0 %	
小テスト	25 %	
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	25 %	出席、聴講態度重視
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):25%(聴講態度重視) 第2学期(学年末試験):25%(試験の成績による) 第1学期(学期末試験):25%(試験の成績による) 真摯に学習することはもちろんであるが、さらに聴講態度も重視する。居眠り、私語、飲食(ガム、飴含む)、無断退出、メールなどは減点対象となり、はなはだしい場合には単位取得不可とみなす場合もある。小テスト:25%(動詞活用や単語などについて随時行う)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

第1学期末試験および小テストは返却する。第2学期末試験は返却しないが、成績に疑問があれば質問に答える。

教科書

グラメール・フランセーズ,学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2018

教科書コメント

学習院大学文学部フランス語圏文化学科作成の教科書。授業開始前に指定する。

参考文献

参考文献コメント

辞書など、教室で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360100103
科目ナンバリング	036A101
科目名	○基礎演習 I C
英文科目名	Practical works on the basic French language, I
担当者名	大野 麻奈子
単位	4
時間割	通年 火曜日 2時限 西1-210.通年 木曜日 2時限 西1-210
副題	

授業概要

週2回、1年間でフランス語の基礎を学ぶ。

到達目標

フランス語読解のための文法を習得し、基本的なフランス語のテキストを読むことができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	フランス語の字母
第2回	発音
第3回	綴り字の発音を一通り学んだ後、原則として教科書の順序に従い、文法を説明する。
第4回	名詞の性・数、冠詞、形容詞、動詞1(ほぼ2週4コマでこの回を終了する。以下同じ)
第5回	動詞2、疑問文、指示形容詞、所有形容詞
第6回	動詞3、否定形、前置詞と冠詞の縮約、部分冠詞
第7回	名詞の複数形、形容詞の女性形、形容詞の比較、副詞の比較、疑問形容詞
第8回	複合過去、受動態、関係代名詞1、過去分詞の一致、強調構文
第9回	命令法、人称代名詞1
第10回	代名動詞、指示代名詞、所有代名詞
第11回	半過去、大過去、人称代名詞2
第12回	単純未来、前未来、非人称動詞、使役動詞・感覚動詞
第13回	疑問代名詞、直接疑問と間接疑問、関係代名詞2
第14回	理解度の確認
第15回	予備日
第16回	単純過去、前過去、現在分詞

第17回	条件法
第18回	接続法1
第19回	接続法2、条件法過去2形
第20回	フランス語の文章(中級程度)を読む。
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	理解度の確認
第30回	予備日

授業計画コメント

授業計画については、受講者に応じて適宜修正を加えることもありえる。

授業方法

文法事項の説明をした後、練習問題をやる。また、動詞の活用などの小テストを定期的に行う。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

指示があった場合には、授業前に指定箇所の問題に取り組んでおくこと。授業後は、その日に学んだ文法事項、単語、表現などを復習し、疑問点があれば次回の授業で質問すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	20 %	
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):20% 第2学期(学年末試験):30% 第1学期(学期末試験):30% 小テスト:20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験は採点后に返却。返却時に誤りの具体例等を出しながら解説する。

教科書

グラメール・フランセーズ,学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2018

教科書コメント

学習院大学文学部フランス語圏文化学科が新たに作成する教科書。授業開始前に指定する。

参考文献

参考文献コメント

辞書、参考書など、教室で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

授業内ではなるべく多くの受講者がフランス語を音読する機会を与えるが、家でも添付のCDを繰り返し聞くことを推奨する。

課程	学部
講義コード	U360101101
科目ナンバリング	036A102
科目名	○基礎演習ⅡA
英文科目名	Practical works on the basic French language, II
担当者名	中条 省平, 一丸 禎子
単位	4
時間割	通年 月曜日 1時限 西2-305.通年 木曜日 3時限 西2-305
副題	フランス語読解と時事フランス語

授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に広げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明:毎週1回は、仏文読解の演習を行い、毎週もう1つの回では、時事フランス語の演習を行う。
第2回	テキスト読解、時事フランス語演習(1)
第3回	テキスト読解、時事フランス語演習(2)
第4回	テキスト読解、時事フランス語演習(3)
第5回	テキスト読解、時事フランス語演習(4)
第6回	テキスト読解、時事フランス語演習(5)
第7回	テキスト読解、時事フランス語演習(6)
第8回	テキスト読解、時事フランス語演習(7)
第9回	テキスト読解、時事フランス語演習(8)
第10回	テキスト読解、時事フランス語演習(9)
第11回	テキスト読解、時事フランス語演習(10)
第12回	テキスト読解、時事フランス語演習(11)
第13回	テキスト読解、時事フランス語演習(12)
第14回	まとめ
第15回	理解度確認
第16回	テキスト読解、時事フランス語演習(13)

第17回	テキスト読解、時事フランス語演習(14)
第18回	テキスト読解、時事フランス語演習(15)
第19回	テキスト読解、時事フランス語演習(16)
第20回	テキスト読解、時事フランス語演習(17)
第21回	テキスト読解、時事フランス語演習(18)
第22回	テキスト読解、時事フランス語演習(19)
第23回	テキスト読解、時事フランス語演習(20)
第24回	テキスト読解、時事フランス語演習(21)
第25回	テキスト読解、時事フランス語演習(22)
第26回	テキスト読解、時事フランス語演習(23)
第27回	テキスト読解、時事フランス語演習(24)
第28回	テキスト読解、時事フランス語演習(25)
第29回	まとめ
第30回	理解度確認

授業計画コメント

授業方法

かなり高度な仏文テキスト読解の演習を行い、それと並行しつつ、中級文法(特に条件法、話法、接続法、現在分詞、代名動詞等)の解説とそれらの事項に関する問題を行う。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで、練習問題などを行うこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):40% 第1学期(学期末試験):40% 小テスト:10% 学期末試験以外の20%は、出席、小テストの結果、授業参加への積極性などを考慮して総合的に採点する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書

教科書コメント

授業時に指示する。

参考文献

参考文献コメント

必要に応じて授業中に教示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360101102
科目ナンバリング	036A102
科目名	○基礎演習ⅡB
英文科目名	Practical works on the basic French language, II
担当者名	川口 覚子・野村 正人
単位	4
時間割	通年 月曜日 1時限 南1-203.通年 金曜日 1時限 南1-203
副題	

授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に広げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明:毎週1回は、仏文読解の演習を行い、毎週もう1つの回では、中級文法の演習を行う。
第2回	テキスト読解、文法演習(1)
第3回	テキスト読解、文法演習(2)
第4回	テキスト読解、文法演習(3)
第5回	テキスト読解、文法演習(4)
第6回	テキスト読解、文法演習(5)
第7回	テキスト読解、文法演習(6)
第8回	テキスト読解、文法演習(7)
第9回	テキスト読解、文法演習(8)
第10回	テキスト読解、文法演習(9)
第11回	テキスト読解、文法演習(10)
第12回	テキスト読解、文法演習(11)
第13回	テキスト読解、文法演習(12)
第14回	まとめ
第15回	理解度確認
第16回	テキスト読解、文法演習(13)

第17回	テキスト読解、文法演習(14)
第18回	テキスト読解、文法演習(15)
第19回	テキスト読解、文法演習(16)
第20回	テキスト読解、文法演習(17)
第21回	テキスト読解、文法演習(18)
第22回	テキスト読解、文法演習(19)
第23回	テキスト読解、文法演習(20)
第24回	テキスト読解、文法演習(21)
第25回	テキスト読解、文法演習(22)
第26回	テキスト読解、文法演習(23)
第27回	テキスト読解、文法演習(24)
第28回	テキスト読解、文法演習(25)
第29回	まとめ
第30回	理解度確認

授業計画コメント

授業方法

かなり高度な仏文テキスト読解の演習を行い、それと並行しつつ、中級文法(特に条件法、話法、接続法、現在分詞、代名動詞等)の解説とそれらの事項に関する問題を行う。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで、練習問題などを行うこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験以外の20%は、出席、小テストの結果、授業参加への積極性などを考慮して総合的に採点する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験やレポートは実施後に採点、コメントをつけて返却する。

教科書

教科書コメント

授業時に指示

参考文献

参考文献コメント

授業時に指示

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。履修者数制限あり。

その他

課程	学部
講義コード	U360101103
科目ナンバリング	036A102
科目名	○基礎演習ⅡC
英文科目名	Practical works on the basic French language, II
担当者名	中山 慎太郎.志々見 剛
単位	4
時間割	通年 月曜日 1時限 西2-504.通年 金曜日 5時限 西2-504
副題	

授業概要

フランス語の初級文法を習得した学生を対象に、中級文法の習得ならびに読解能力の涵養を目指す。

到達目標

フランス語の文法知識を確かなものにするとともに、それに基づいたフランス語の読解能力を高める。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	テキストの読解、文法演習
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	まとめ
第15回	自主研究
第16回	テキストの読解、文法演習

第17回	〃
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	まとめ
第30回	自主研究

授業計画コメント

受講者と相談のうえ、授業計画を変更する可能性もある。

授業方法

文法を志々見、読解を中山が担当する。具体的な進め方は、初回の授業で指示する。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

授業の復習および予習。その他、指定された課題を行う。(約一時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	25 %	
学年末試験(第2学期)	25 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	25 %	
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	25 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

適宜、コメントや講評を行う。

教科書

中級フランス文法,秋山晴夫、他,第三書房

教科書コメント

上記の教科書は、文法の授業で使用する。
読解の授業では、プリントを配布する。

参考文献

参考文献コメント

授業内で、適宜指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

毎回必ず仏和・和仏の辞書を持参すること。

課程	学部
講義コード	U360102101
科目ナンバリング	036A103
科目名	フランス語演習A
英文科目名	Seminar in the French language
担当者名	MARE, Thierry
単位	4
時間割	通年 水曜日 4時限 北1-302
副題	Traduire en français

授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

授業内容

実施回	内容
第1回	A chaque séance, une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	Etc.
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

授業計画コメント

A l'occasion de ces travaux, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

授業方法

Une importance particulière sera accordée au respect de l'ordre des groupes de mots, qui n'est autre que l'ordre des idées, identique en français et en japonais malgré les différences superficielles de la grammaire.

使用言語

日本語		英語		日本語・英語以外	1
-----	--	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux, que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d'indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu'à ce qu'ils soient sûrs d'avoir tout compris (ou d'avoir des questions à poser).

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	10 %	

その他(備考欄を参照)

その他(備考欄を参照)		
-------------	--	--

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):60% 第1学期(学期末試験):30% Ces pourcentages n'ont, bien sûr, aucun sens. Il s'agira de mesurer sur toute l'année le travail et les progrès des étudiants.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Comme il est évident (au point de n'avoir aucun besoin d'être précisé) les examens sont rendus accompagnés de commentaires.

教科書

教科書コメント

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360102102
科目ナンバリング	036A103
科目名	フランス語演習B
英文科目名	Seminar in the French language
担当者名	MARE, Thierry
単位	4
時間割	通年 木曜日 3時限 北1-302
副題	Traduire en français

授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

授業内容

実施回	内容
第1回	A chaque séance une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	Etc.
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

授業計画コメント

A l'occasion de ces seances, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

授業方法

Une importance particulière sera accordée au respect de l'ordre des groupes de mots, qui n'est autre que l'ordre des idées, identique en français et en japonais malgré les différences superficielles de la grammaire.

使用言語

日本語		英語		日本語・英語以外	1
-----	--	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux, que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d'indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu'à ce qu'ils soient sûrs d'avoir tout compris (ou d'avoir des questions à poser).

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	10 %	

その他(備考欄を参照)

その他(備考欄を参照)		
-------------	--	--

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):60% 第1学期(学期末試験):30% Ces pourcentages n'ont, bien sûr, aucun sens. Il s'agira surtout de mesurer le travail et les progrès accomplis par chaque étudiant au cours de l'année.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Comme il est évident (au point de n'avoir aucun besoin d'être précisé) les examens sont rendus accompagnés de commentaires.

教科書

教科書コメント

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360103101
科目ナンバリング	036A800
科目名	ゼミナールA
英文科目名	Seminar
担当者名	鈴木 雅生
単位	4
時間割	通年 金曜日 3時限 北1-402
副題	アンドレ・ジッド研究

授業概要

20世紀前半を代表する作家の一人であるアンドレ・ジッド(1869-1951)の『田園交響楽La Symphonie pastorale』(1919)を読む。盲目の少女を引き取って養うプロテスタントの牧師の手記という体裁をとるこの作品を精読しながら、ジッドにおける愛と信仰の問題を考えてみたい。

到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、文化的歴史的背景とともに理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	ジッドおよび『田園交響楽』についての解説
第3回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(1)
第4回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(2)
第5回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(3)
第6回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(4)
第7回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(5)
第8回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(6)
第9回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(7)
第10回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(8)
第11回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(9)
第12回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(10)
第13回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(11)
第14回	まとめ
第15回	自主研究
第16回	後期ガイダンス

第17回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(12)
第18回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(13)
第19回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(14)
第20回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(15)
第21回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(16)
第22回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(17)
第23回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(18)
第24回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(19)
第25回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(20)
第26回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(21)
第27回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(22)
第28回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(23)
第29回	まとめ
第30回	自主研究

授業計画コメント

授業方法

演習形式の授業であるので、大筋を説明した後は、各自にテキストを分担してもらいながら授業を進める。単なる訳読ではなく、担当した箇所の分析やコメントを求めることになる。担当者の発表を出発点に、全体でディスカッションを行う。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	夏休みの課題

成績評価コメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

教科書

La Symphonie pastorale,Gide,Gallimard,folio

教科書コメント

参考文献

参考文献コメント

授業時に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360103102
科目ナンバリング	036A800
科目名	ゼミナールB
英文科目名	Seminar
担当者名	田上 竜也
単位	4
時間割	通年 火曜日 3時限 西1-306
副題	文学と建築

授業概要

ユイスマンズ『さかしま』やヴァレリー『エウパリオス』などを題材に、文学や諸芸術と建築とのかかわり、とくに文学に描かれたインテリアについて考察します。

到達目標

作家、作品について理解を深めるとともに、文学や建築についての教養を深めます。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	テキスト訳読
第3回	〃
第4回	〃
第5回	テキスト訳読、学生発表
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	まとめ
第16回	テキスト訳読、レポートの書き方指導

第17回	テキスト訳読、学生発表
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	テキスト訳読
第28回	〃
第29回	〃
第30回	まとめ

授業計画コメント

授業方法

基本的にはテキストに沿って、学生に訳読してもらいます。テキストの正確な読解を基本とし、さらに内容への理解を深めるため、随時関連文献も参照します。また、建築と文学、諸芸術のかかわりについて、順番に各回20分程度の発表をしてもらう予定です。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

特に担当箇所は十分準備すること(約2、3時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	0 %	
学年末試験(第2学期)	0 %	
中間テスト	0 %	
レポート	50 %	プレゼンテーションおよび配布資料作成
小テスト	0 %	
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	0 %	

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(出席、訳読、聴講態度) 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム含む)、無断退出、メールなどは減点対象となります。レポート:50%(授業内発表のレジュメ)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
発表についてその都度コメントにより評価する。

教科書

教科書コメント
コピー配布。

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意
履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360103103
科目ナンバリング	036A800
科目名	ゼミナールC
英文科目名	Seminar
担当者名	野村 正人
単位	4
時間割	通年 木曜日 2時限 西2-506
副題	アルノー・デプレシャン研究

授業概要

現代フランスにおけるもっとも重要な映画作家のひとり、アルノー・デプレシャン Arnaud Desplechin の映画を研究する。授業では、彼の作品にまつわる文章を読みながら、デビュー作から順を追って作品を具体的に考察する。

到達目標

大戦後のフランス映画の概要を把握すると同時に、アルノー・デプレシャンの映画の持つ独自性を理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	戦後のフランス映画(1)
第2回	戦後のフランス映画(2)
第3回	戦後のフランス映画(3)
第4回	アルノー・デプレシャンの映画概観(1)
第5回	アルノー・デプレシャンの映画概観(2)
第6回	『二十歳の恋』(1)
第7回	『二十歳の恋』(2)
第8回	『二十歳の恋』(3)
第9回	『魂を救え』(1)
第10回	『魂を救え』(2)
第11回	『魂を救え』(3)
第12回	『そして僕は恋をする』(1)
第13回	『そして僕は恋をする』(2)
第14回	『そして僕は恋をする』(3)
第15回	理解度確認
第16回	『エスター・カーン』(1)

第17回	『エスター・カーン』(2)
第18回	『エスター・カーン』(3)
第19回	『キングス&クイーン』(1)
第20回	『キングス&クイーン』(2)
第21回	『キングス&クイーン』(3)
第22回	『クリスマス・ストーリー』(1)
第23回	『クリスマス・ストーリー』(2)
第24回	『クリスマス・ストーリー』(3)
第25回	『ジミーとジョルジュ』(1)
第26回	『ジミーとジョルジュ』(2)
第27回	『あの頃エッフェル塔の下で』(1)
第28回	『あの頃エッフェル塔の下で』(2)
第29回	まとめ(1)
第30回	まとめ(2)

授業計画コメント

授業方法

各々の映画に関する文献を読みながら授業を進める。授業外で見えてきた作品について討論する。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること(1時間)
扱う映画作品を見ておく。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験の答案、レポートは採点し、コメントをつけて返却する。

教科書

教科書コメント

授業時に指示。

参考文献

参考文献コメント

授業時に指示。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360103104
科目ナンバリング	036A800
科目名	ゼミナールD
英文科目名	Seminar
担当者名	中条 省平
単位	4
時間割	通年 木曜日 1時限 西1-103
副題	フランス映画史研究

授業概要

トーカー以降の映画史の名せりふを集めた『映画の最も名高い台詞の歴史』(ヴィダル&グラセール共編)を題材にして、エスプリにみちたフランス語を読み解く方法を学び、同時に、映画の歴史および20世紀フランスの社会状況や思想について研究する。

到達目標

映画の見方を理解し、フランス映画史の概略およびフランス文化史の基礎を把握し、批評および口語に用いられるフランス語の読み方を上達させられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	映画作家の紹介および作品の内容概説
第2回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(1)
第3回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(2)
第4回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(3)
第5回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(4)
第6回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(5)
第7回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(6)
第8回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(7)
第9回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(8)
第10回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(9)
第11回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(10)
第12回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(11)
第13回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(12)
第14回	まとめ
第15回	到達度確認
第16回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(13)

第17回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(14)
第18回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(15)
第19回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(16)
第20回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(17)
第21回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(18)
第22回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(19)
第23回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(20)
第24回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(21)
第25回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(22)
第26回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(23)
第27回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(24)
第28回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(25)
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

授業計画コメント

授業方法

フランス語読解の訓練をあらゆる面から実践することが授業の根幹となるが、さまざまなテーマに基づく発言を随時義務づけ、成績判断の重要な根拠とする。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

徹底的に辞書を引きながら、また、未知の事項を百科事典、映画事典など適切な事典類を用いて調べながら、原書テキストの5ページほどを読んでおくこと(1時間半)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):30% 第2学期(学年末試験):70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書

教科書コメント

詳細は第1回目の授業で指示する。

参考文献

参考文献コメント

Vidal&Glasser :Histoire des plus celebres repliques du cinema (Ramsay)

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360103105
科目ナンバリング	036A800
科目名	ゼミナールE
英文科目名	Seminar
担当者名	堀内 ゆかり
単位	4
時間割	通年 金曜日 3時限 南1-206
副題	翻訳道場

授業概要

フランス語の文章をよく読み、意味を正確に理解したうえで、もとの文章の雰囲気を保つ日本語にするトレーニングをします。原文のリズムを感じるためには音読、原文を正確に読むにはフランス語力も不可欠です。絵本や、フランスの詩集を使って、原文の雰囲気を保つように訳すとはどういうことかを学びたいと思います。自分の興味に応じたテーマに関する発表も予定しています。

到達目標

「自分で考える」とは？ 翻訳や発表を通じて「自分で考える」ことを体得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction (1) ゼミの進め方について、フランス語力測定
第2回	Introduction(2)
第3回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	まとめ
第15回	振り返り

第16回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント	フランス語力測定
第17回	学生による発表、学生相互によるコメント	
第18回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント	
第19回	学生による発表、学生相互によるコメント	
第20回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント	
第21回	学生による発表、学生相互によるコメント	
第22回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント	
第23回	学生による発表、学生相互によるコメント	
第24回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント	
第25回	学生による発表、学生相互によるコメント	
第26回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント	
第27回	学生による発表、学生相互によるコメント	
第28回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント	
第29回	まとめ	
第30回	振り返り	

授業計画コメント

授業方法

演習形式

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

翻訳発表の準備(1時間以上)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	40 %	参加度で評価します。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):40%(参加度で評価します。) 第2学期(学年末試験):20% 第1学期(学期末試験):20% レポート:20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

原則として返却します

教科書

Paroles, Jacques Prévert, Gallimard, 2016

教科書コメント

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360103106
科目ナンバリング	036A800
科目名	ゼミナールF
英文科目名	Seminar
担当者名	MARE, Thierry
単位	4
時間割	通年 木曜日 4時限 西2-406
副題	"Ruy Blas" de Victor Hugo

授業概要

Les représentations du "Roi s'amuse" ont été interdites en 1832 pour des raisons politiques. Victor Hugo devient de plus en plus hostile à la royauté, fût-ce sous la forme constitutionnelle que lui a donnée Louis-Philippe, "roi des Français". Le cinquième "drame" de l'auteur d' "Hernani" va parachever cette évolution politique en joignant la critique de la noblesse à celle de la monarchie. L'ouvrage, créé en 1838 au Théâtre de la Renaissance, sera boudé par la critique mais obtiendra un vrai succès public. Cette pièce reste aujourd'hui la plus souvent représentée du théâtre de Victor Hugo. Renouant avec l'atmosphère espagnole d' "Hernani", elle retrouve la liberté expérimentale des premières tentatives du dramaturge.

到達目標

Comme nous l'avons fait pour "Hernani", nous étudierons l'ensemble de l'œuvre en la replaçant dans son double contexte historique : celui de l'Espagne du Siècle d'Or et celui de la Monarchie de Juillet. Après une rapide explication des principes généraux du drame romantique et de leur application particulière chez Hugo, nous insisterons sur l'audace des effets de mise en scène imaginés, sur la conception des personnages et, surtout, sur l'emploi de la versification : ce qui nous permettra de rappeler certains points de prosodie et de métrique français. Dans la mesure du possible, j'utiliserai les captations de spectacles disponibles et autres documents visuels ou sonores, afin d'offrir aux étudiants le plus large aperçu de l'univers dramatique hugolien.

授業内容

実施回	内容
第1回	Présentation générale : le théâtre romantique en France
第2回	Présentation de "Ruy Blas". Circonstances de la composition, histoire des représentations.
第3回	Synopsis de la pièce, lecture du premier acte
第4回	Lecture du premier acte (suite)
第5回	"
第6回	"
第7回	"
第8回	Lecture du deuxième acte
第9回	Lecture du deuxième acte (suite)
第10回	"
第11回	"
第12回	"

第13回	Lecture du troisième acte.
第14回	Lecture du troisième acte (suite)
第15回	Récapitulation du travail du premier semestre
第16回	Lecture du troisième acte (reprise)
第17回	”
第18回	”
第19回	Lecture du quatrième acte
第20回	Lecture du quatrième acte (suite)
第21回	”
第22回	”
第23回	”
第24回	Lecture du cinquième acte
第25回	Lecture cinquième acte (suite)
第26回	Exposés et reprises
第27回	Exposés et reprises
第28回	Exposés et reprises
第29回	Exposés et reprises
第30回	Conclusion et récapitulation du travail de l'année.

授業計画コメント

Cet emploi du temps est, bien sûr, modulable en fonction des besoins et de la curiosité des assistants.

授業方法

Je demanderai tour à tour à chaque étudiant de lire quelques lignes du texte, puis de m'indiquer les passages qu'il ne comprend pas. C'est par ces points que commencera mon explication, avant de se développer dans d'autres directions.

使用言語

日本語		英語		日本語・英語以外	1
-----	--	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

Les étudiants seront priés de préparer le texte (cinq ou six pages environ) avant chaque cours : d'en chercher le vocabulaire et d'avoir une idée générale des dialogues et de leur signification. Ils pourront d'ailleurs s'aider des traductions japonaises existantes.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	80 %	Ce travail sera délivré devant la classe tout entière, sous la forme d'un exposé.

小テスト

小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Pour mieux appuyer mon évaluation de l'exposé fait en classe, je demanderai à chaque étudiant de me rendre une version écrite du texte prononcé devant ses camarades.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Chaque exposé sera, bien sûr, suivi d'une reprise en classe, destinée à le compléter au besoin.

教科書

Ruy Blas : Petits Classiques Larousse, Victor Hugo, Larousse, 2010, 978-2035855732

教科書コメント

Cela dit, n'importe quelle autre édition me conviendra tout aussi bien !

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360103107
科目ナンバリング	036A800
科目名	ゼミナールG
英文科目名	Seminar
担当者名	吉田 加南子
単位	4
時間割	通年 木曜日 2時限 南1-305
副題	19世紀の詩

授業概要

19世紀の代表的な詩人の作品を精読し、詩の魅力を味わうとともに、詩が担っている思想について考えます。

到達目標

フランス詩の詩法の基本を理解し、各詩篇について音楽性や比喩などの表現方法を分析でき、テーマについて議論を展開することができる。そして詩というジャンルのあり方について考えることができる。あわせて公正な研究のための資料の使い方や引用方法、また記録の管理について学びます。

授業内容

実施回	内容
第1回	詩というジャンル一般について
第2回	フランス文学における詩というジャンル
第3回	フランス詩法概要
第4回	フランス詩法の理解と分析
第5回	フランス詩の歴史
第6回	ボードレー「悪の華」概論
第7回	「旅への誘い」訳読
第8回	「旅への誘い」の韻律研究
第9回	「旅への誘い」における美意識
第10回	「前世」訳読
第11回	「前世」の時間意識
第12回	「前世」の空間意識
第13回	「秋の歌」第1部訳読
第14回	理解度の確認
第15回	到達度の確認
第16回	「秋の歌」第2部訳読

第17回	「秋の歌」全篇の思想
第18回	「秋の歌」全篇の感覺性
第19回	ボードレールの詩についてのまとめ
第20回	ヴェルレーヌ概論
第21回	ヴェルレーヌの詩法
第22回	「月の光」訳読
第23回	「月の光」の表現方法
第24回	「それはものうい(…)」訳読
第25回	「それはものうい(…)」の音樂性
第26回	「私の心に涙が降る」訳読
第27回	「私の心に涙が降る」の感覺世界
第28回	ヴェルレーヌとランボーについて
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

授業計画コメント

授業方法

演習を基本軸とし、あわせて問題を発見する作業、グループディスカッションを行う。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

授業前にテキストの該当箇所を読み(1時間～2時間)、授業後は、授業中にふれた問題点について復習し、まとめる(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	35 %	授業態度、授業時の発表
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業の進展状況によっては、若干の調整がありえます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験の答えは返却し、授業内で解説する。

教科書

教科書コメント

使用テキスト及び参考文献については授業時に指示する。

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360103108
科目ナンバリング	036A800
科目名	ゼミナールH
英文科目名	Seminar
担当者名	大野 麻奈子
単位	4
時間割	通年 水曜日 1時限 西1-207
副題	

授業概要

Maurice Maeterlinck(モーリス・メーテルランク)のL'Oiseau bleuの抜粋を精読する。

到達目標

作品を読み、鑑賞することで知識を深める。フランス語で書かれた作品や論文を読む力をつける。
自ら調べ、考えたことを言葉で表現する力をつける。

授業内容

実施回	内容
第1回	教師があらかじめ(またはその場で)配布する資料を精読する。メーテルランクの別の作品の抜粋も適宜扱う。視聴覚資料も随時見せながら授業を進めることになるであろう。
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	

- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

授業計画コメント

受講者と相談のうえ、授業計画を変更する可能性もある。

授業方法

通常の授業では、文献資料を受講生が訳し、教師がそれに対し注釈をつける。全体を読むことができない資料については教師が全体像を説明する。受講生に、関連テーマについて調べて小発表をしてもらうこともある。2学期の受講生による発表は、発表後に他の受講生からも積極的に質問や感想を述べてもらう。2学期のレポートは 発表後の議論と注釈や他の受講生の発表なども参考にした形で完成させることになる。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

事前に読むことを指示した文献については各自読んでくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	年2回のレポート提出
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	発表＋議論

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):20% 発表＋議論:30% 年2回のレポート提出、発表、平常点を総合的に評価する。レポート:50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

夏季レポートは、コメントをつけて返却する。

教科書

教科書コメント

授業時に指示する。

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360103109
科目ナンバリング	036A800
科目名	ゼミナールI
英文科目名	Seminar
担当者名	志々見 剛
単位	4
時間割	通年 木曜日 4時限 西2-305
副題	ラブレー研究

授業概要

ラブレー『パンタグリユエル』を精読します。

到達目標

辞書などを活用して、フランス語の文章を読み解くことができる。作品の歴史的・文化的な背景を踏まえた上で、内容を理解し、それについて自分の言葉で表現できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	作家・作品の紹介ならびに概要の説明
第2回	同上
第3回	〃
第4回	『パンタグリユエル』の訳読・発表
第5回	同上
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	授業のまとめ
第15回	自主研究
第16回	先学期に行ったことの確認と、新学期の概要の説明

第17回	『パンタグリユエル』の訳読・発表
第18回	同上
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	授業のまとめ
第30回	自主研究

授業計画コメント

授業方法

はじめの三回程度は、作家・作品およびその背景についての説明を行う。参考文献ならびに必要な辞書類についてもその時に指示する。それ以降は、事前に担当を決めた上で、訳読・発表をしてもらう。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

事前に該当箇所を読むこと。語彙、文法、その他の背景知識についても調べ、疑問点を明確にすること。(約一時間)その他、指示された参考資料に目を通しておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

適宜、コメントや講評を行う。

教科書

教科書コメント

授業内で指示します。

参考文献

参考文献コメント

参考文献は授業内で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

発表の無断欠席と、レポート等での不正には厳正に対処します。

課程	学部
講義コード	U360106101
科目ナンバリング	036A902
科目名	卒業演習A
英文科目名	Graduation Seminar
担当者名	鈴木 雅生
単位	0
時間割	通年 火曜日 1時限 西2-404
副題	聖書と絵画

授業概要

西欧の文化を理解するためには、聖書についての知識が欠かせない。この授業では、新約聖書からいくつかの場面を取り上げてフランス語で読むとともに、その場면을題材にした絵画の分析を行う。

到達目標

西欧文化の基盤にあるキリスト教の基礎知識を学ぶとともに、絵画を読み解く分析力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	受胎告知
第3回	聖母訪問
第4回	イエスの降誕
第5回	東方三博士礼拝
第6回	エジプトへの避難
第7回	嬰兒虐殺
第8回	イエスの洗礼
第9回	カナの婚礼
第10回	イエスの変容
第11回	善きサマリア人のたとえ話
第12回	放蕩息子のたとえ話
第13回	予備日
第14回	まとめ
第15回	振り返り
第16回	ガイダンス

第17回	姦通の女
第18回	ラザロの復活
第19回	最後の晩餐
第20回	オリーブ山での苦悶
第21回	イエスの逮捕
第22回	ピラトの前のイエス、答刑
第23回	十字架の道行き
第24回	磔刑
第25回	イエスの復活
第26回	予備日
第27回	予備日
第28回	予備日
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、受講者の関心や授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

はじめにフランス語聖書の抜粋を訳読したあと、担当学生がその場면을題材とした絵画について分析を行い、それをもとに受講生全員で議論を行う。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

授業前にはあらかじめテキストを読んで疑問点を明確にしておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表中心の授業のため、都度授業内で発表者に対してコメントを行う。

教科書

La Bible, textes choisis et présentés par Philippe Sellier,Édition Point,2008

教科書コメント

補助教材として適宜プリントを配布する。

参考文献

参考文献コメント

授業時に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360106102
科目ナンバリング	036A902
科目名	卒業演習B
英文科目名	Graduation Seminar
担当者名	田上 竜也
単位	0
時間割	通年 水曜日 3時限 西2-405
副題	

授業概要

フランス世紀末文学を代表する作家のひとりヴィリエ・ド・リラダンの傑作短編集『残酷物語』から、数篇選んで読みます。

到達目標

作品の正確な読解につとめるとともに、そこにこめられた風刺の意味合いや時代背景について理解を深めます。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	テキスト訳読
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	まとめ
第16回	いままでの内容確認

第17回	テキスト訳読
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	まとめ

授業計画コメント

授業方法

基本的には学生のみなさんにテキストの分担した部分を訳読してもらい進め、随時作者や作品についての解説を加えます。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

各自毎回数ページを読んでくること。とくに指定された箇所は正確な訳を心がけること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):60%(出席、聴講態度重視) 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム含む)、無断退出、メールなどは大きな減点対象となります。第2学期(学年末試験):20%(授業内容の確認) 第1学期(学期末試験):20%(授業内容の確認)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

前期試験は返却する。後期試験は返却しないが質問には応じる。

教科書

Contes cruels : Collection Folio, Villiers de l'Isle-Adam, Gallimard

教科書コメント

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360106103
科目ナンバリング	036A902
科目名	卒業演習C
英文科目名	Graduation Seminar
担当者名	野村 正人
単位	0
時間割	通年 金曜日 2時限 西2-304
副題	

授業概要

André Guyaux, 『Le Paris de Baudelaire』を読みながら、ボードレールの足跡を辿りつつ、19世紀のパリの姿を考察する。

到達目標

詩人シャルル・ボードレールの生涯と詩を理解する。
19世紀パリの生活と都市のあり方を理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	19世紀のパリ、概観(1)
第2回	19世紀のパリ、概観(2)
第3回	シャルル・ボードレールの生涯(1)
第4回	シャルル・ボードレールの生涯(2)
第5回	Le Paris de Baudelaire 読解と解説(1)
第6回	Le Paris de Baudelaire 読解と解説(2)
第7回	Le Paris de Baudelaire 読解と解説(3)
第8回	Le Paris de Baudelaire 読解と解説(4)
第9回	Le Paris de Baudelaire 読解と解説(5)
第10回	Le Paris de Baudelaire 読解と解説(6)
第11回	Le Paris de Baudelaire 読解と解説(7)
第12回	Le Paris de Baudelaire 読解と解説(8)
第13回	Le Paris de Baudelaire 読解と解説(9)
第14回	まとめ
第15回	理解度確認
第16回	Le Paris de Baudelaire 読解と解説(10)

第17回	Le Paris de Baudelaire読解と解説(11)
第18回	Le Paris de Baudelaire読解と解説(12)
第19回	Le Paris de Baudelaire読解と解説(13)
第20回	Le Paris de Baudelaire読解と解説(14)
第21回	Le Paris de Baudelaire読解と解説(15)
第22回	Le Paris de Baudelaire読解と解説(16)
第23回	Le Paris de Baudelaire読解と解説(17)
第24回	Le Paris de Baudelaire読解と解説(18)
第25回	Le Paris de Baudelaire読解と解説(19)
第26回	Le Paris de Baudelaire読解と解説(20)
第27回	Le Paris de Baudelaire読解と解説(21)
第28回	Le Paris de Baudelaire読解と解説(22)
第29回	まとめ
第30回	理解度確認

授業計画コメント

授業方法

事前に担当箇所を学生に指定し、その部分の訳を発表してもらい、それをもとにコメントをつけ、解説をする。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

授業当日に使用するテキストの該当箇所を調べしておくこと(1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	45 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	10 %	和訳の発表
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験、レポートなどは採点、コメントをつけて返却する。

教科書

Le Paris de Baudelaire, André Guyaux, Alexandrines ,2017,978-2370890450

教科書コメント

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360106104
科目ナンバリング	036A902
科目名	卒業演習D
英文科目名	Graduation Seminar
担当者名	中条 省平
単位	0
時間割	通年 月曜日 2時限 西2-505
副題	フランス暗黒小説読解

授業概要

フランスの暗黒小説(探偵小説)の短篇を集めた『犯罪真髓』(ルブラン&メスプレード共編)を題材にして、小説読解の方法を学び、同時に、19~20世紀フランスの政治・社会状況および文学をめぐる思想について研究する。

到達目標

近代の探偵小説(ミステリー)の歴史と手法の概略を理解し、そのフランスにおける独自の展開と特性を把握し、フランスで一般的に人気のあるミステリーを原文で読めるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	序説:フランス暗黒小説の歴史
第2回	アランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(1)
第3回	アランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(2)
第4回	アランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(3)
第5回	アランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(4)
第6回	アランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(5)
第7回	アランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(6)
第8回	アランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(7)
第9回	アランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(8)
第10回	アランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(9)
第11回	アランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(10)
第12回	アランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(11)
第13回	アランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(12)
第14回	まとめ
第15回	到達度確認
第16回	アランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(13)

第17回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説 (14)
第18回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説 (15)
第19回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説 (16)
第20回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説 (17)
第21回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説 (18)
第22回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説 (19)
第23回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説 (20)
第24回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説 (21)
第25回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説 (22)
第26回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説 (23)
第27回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説 (24)
第28回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説 (25)
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

授業計画コメント

授業方法

フランス語読解の訓練をあらゆる面から実践することが授業の根幹となるが、さまざまなテーマに基づく発言を随時義務づけ、成績判断の重要な根拠とする。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

徹底的に辞書を引きながら原書の5ページほどを読んでおくこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):30% 第2学期(学年末試験):70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書

教科書コメント

第1回目の授業時に指示する。

参考文献

参考文献コメント

M. Lebrun & C. Mesplede : La Creme du crime (l'Atalante)

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360106105
科目ナンバリング	036A902
科目名	卒業演習E
英文科目名	Graduation Seminar
担当者名	吉田 加南子
単位	0
時間割	通年 火曜日 2時限 北1-303
副題	シュルレアリスム演習

授業概要

シュルレアリスムの詩人の作品を読み、20世紀フランス詩におけるシュルレアリスムの意義、そして第2次世界大戦下のレジスタンス運動における役割を考えます。あわせて公正な研究のための資料の扱い方や引用方法、また記録の管理について学びます。

到達目標

シュルレアリスムが目指した世界について学び、その根底にある人間論や文化論を理解し、その批評性また詩と政治・社会との関わりを考え、論じることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	シュルレアリスム概論
第2回	第2次世界大戦後のヨーロッパ
第3回	シュルレアリスムと共産主義
第4回	レジスタンスの詩人たち
第5回	アラゴンの詩概要
第6回	「C」訳読
第7回	「ダンケルクの夜」前半訳読
第8回	「ダンケルクの夜」後半訳読
第9回	「未完の6枚のタペストリー」訳読
第10回	「薔薇と金木犀」訳読
第11回	上記4詩篇の詩法
第12回	アラゴンの思想
第13回	デスノス概論
第14回	まとめ
第15回	到達度確認
第16回	デスノス初期詩篇

第17回	「サン・マルタン街の歌」訳読
第18回	「最後の詩」訳読
第19回	上記2詩篇の詩法
第20回	上記2詩篇の広がり
第21回	「おはなした」概論
第22回	「おはなした」の素材
第23回	「おはなした」の展開
第24回	プレヴェール概論
第25回	「パロール」の世界
第26回	「パロール」の方法
第27回	シャールの詩
第28回	シャールの思想
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

授業計画コメント

授業方法

演習を基本軸とし、あわせて表現方法を読み取り、問題点を発見する作業、そうしたことを考えるためのグループワークやディスカッションを行う。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

授業前にテキストの該当箇所を読み(1時間～2時間)、授業後は授業中に検討した問題について復習し、まとめる(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	35 %	授業態度、授業時の発表
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業の進展状況によっては、若干の調整がありえます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験の答えは返却し、授業内で解説する。

教科書

教科書コメント

使用テキスト及び参考文献については授業時に指示する。

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360106106
科目ナンバリング	036A902
科目名	卒業演習F
英文科目名	Graduation Seminar
担当者名	志々見 剛
単位	0
時間割	通年 金曜日 4時限 西1-109
副題	『危険な関係』を読む

授業概要

ラクロの『危険な関係』(1782年)を取り上げ、同時代の思想的・政治的な背景なども考えながら、読解します。

到達目標

作品の文化的・歴史的な背景を踏まえながら内容を理解し、それについて自分の言葉で表現できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の概要の説明ならびに作品の紹介
第2回	訳読・発表
第3回	同上
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	授業のまとめ
第15回	自主研究
第16回	訳読・発表

第17回	同上
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	授業のまとめ
第30回	自主研究

授業計画コメント

授業方法

初回は作品の紹介およびガイダンスを行う。
担当する学生による訳読・発表ならびに、それについてのディスカッション。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

該当箇所を丹念に読むこと。(約一時間)適宜、指示された参考資料にも目を通すこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

適宜、コメントや講評を行う。

教科書

教科書コメント

授業内で指示する。

参考文献

参考文献コメント

授業内で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

発表の無断欠席と、レポート等での不正には厳正に対処します。

課程	学部
講義コード	U360200101
科目ナンバリング	036A201
科目名	フランス語圏文化入門(言語・翻訳)
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Language & Translation)
担当者名	中尾 和美
単位	4
時間割	通年 火曜日 5時限 西5-302
副題	

授業概要

フランス語は系統的にも文法構造上も日本語とは全く異なった言語である。にもかかわらず、ともに「頭(tête)」という語は、「人間の頭、くぎの頭、冒頭」を指すことができる。他方、フランス語には、複合過去、半過去、大過去、単純過去など、日本語には存在しない多くの過去を示す形態がある。この授業では、フランス語を日本語と比較対照させることで、ことばについて考え、言語学の第一歩となるような視点を養うことを目的とする。具体的には、新聞、小説などから実際に収集した例文を観察し、日本語と対照させることで、フランス語の語彙の使い方、またフランス語の人称、時制、法、態などの文法形式がどのように言語外現実を表現しているかを考察する。さらに、フランス語の歴史や21世紀におけるフランス語圏の現状についても考える。

到達目標

フランス語がなぜイタリア語やスペイン語と似ているのか理解できるようになる。フランス語の文法(複合過去と半過去の違い、部分冠詞とは?)について、より具体的に理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	フランス語圏の国々の現状(1) ヨーロッパ、カナダ、ルイジアナ
第3回	フランス語圏の国々の現状(2) アフリカ、南太平洋、カリブ海
第4回	様々な地域のフランス語の発音と語彙
第5回	フランス語の歴史、変遷(1)ストラスブールの誓約
第6回	フランス語の歴史、変遷(2)中世
第7回	フランス語の歴史、変遷(3)近・現代
第8回	フランスにおける様々な地域語
第9回	翻訳とは?
第10回	翻訳と借用語
第11回	翻訳の可能性(1)固有名詞の翻訳
第12回	翻訳の可能性(2)言葉遊び
第13回	翻訳の可能性(3)笑い話
第14回	翻訳の可能性(4)なぞなぞ

第15回	予備日
第16回	日仏対照考察(1)レトリック
第17回	日仏対照考察(2)直喩・隠喩
第18回	日仏対照考察(3)換喩
第19回	日仏対照考察(4)意味の拡張・変化(1)
第20回	日仏対照考察(5)意味の拡張・変化(2)
第21回	仏語学的考察(1)名詞の性
第22回	仏語学的考察(2)部分冠詞・不定冠詞
第23回	仏語学的考察(3)定冠詞
第24回	仏語学的考察(4)複合過去と半過去
第25回	仏語学的考察(5)大過去、単純過去、近接過去
第26回	仏語学的考察(6)単純未来と近接未来
第27回	仏語学的考察(7)受動態・代名動詞
第28回	誤用
第29回	新語法
第30回	授業の総括

授業計画コメント

授業方法

具体的な例を見ながら、ことばについて共に考える。積極的に授業に参画することが望まれる。毎回授業の最後に授業の復習を兼ねたコメントカードの提出をもとめる。その際、質問・コメントなどあれば、カードに記入してもらい、学生諸君との意思疎通を図るようにする。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

フランス語の初級文法の教科書を復習しておくことが好ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

原則として、第1学期末に試験、学年末に試験を行う予定だが、場合によっては学年末試験のみとする場合もある。また、毎回授業後に行う授業の復習を兼ねたコメントの提出、及び授業への参加、出席な

どの平常点も成績評価の対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回のコメントカードに書かれた質問については、次回の授業で答え、フィードバックを行う。

教科書

教科書コメント

必要に応じてプリントにて配布

参考文献

- フランス語の小径,泉邦寿,白水社,2004
- 翻訳仏文法(上)(下),鷺見洋一,ちくま学芸文庫,2003
- Le bon usage,M.Grevisse,Duculot,2011
- フランス語とはどういう言語か,大橋保夫,駿河台出版,1993
- 新フランス文法事典,朝倉季雄,白水社,2002

参考文献コメント

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

フランス語圏文化学科の2年生、またはフランス語既習の1年生のみ履修可能。他学科の学生は履修不可。フランス語未習の学生は履修を認めない。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

課程	学部
講義コード	U360201101
科目ナンバリング	036A202
科目名	フランス語圏文化入門(舞台・映像)
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Theater & Films)
担当者名	彦江 智弘
単位	4
時間割	通年 金曜日 2時限 西1-101
副題	

授業概要

映画はたんに「観る」という行為に還元しうるものではない。映画は「観る」という一見すると受動的な態度を超えて、これまでに夥しい数の言葉を誘発してきた。実際、私たちは映画と同時に映画をめぐる様々な言葉に取り囲まれてもいる。しかし「観る」から「語る」への移行は必ずしも自明のものではない。ましてやそれが「論じる」ということであればなおさらである。本講義では、映画を「論じる」際に最低限知っておかなければならない(たとえあえてそれにふれないことがあるとしても)、映画の2つの側面を取り上げる。①映画を分析的に見るためのいくつかの形式的・制度的側面、②映画史(本講義ではフランス映画の変遷を取り上げる)。

到達目標

①映画の形式的・制度的側面について学び、映画を分析的に見ることができるようになる。②重要な映画作家を知ること、フランス映画が迎った変遷を理解し、フランス映画についての理解を深めることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	映画という経験
第3回	映画を「観る」
第4回	シーン／ショット
第5回	モンタージュ①古典的モンタージュ
第6回	モンタージュ②様々な実験
第7回	映画と写真
第8回	モンタージュ／長回し
第9回	映画と音
第10回	演技
第11回	ジャンル
第12回	デジタル時代の映画
第13回	フランスの映画批評
第14回	理解度の確認

第15回	前期の振り返り
第16回	リュミエール兄弟
第17回	ジョルジュ・メリエス
第18回	フランス印象派
第19回	両大戦間期のアヴァンギャルド映画
第20回	詩的リアリズム
第21回	ジャン・ルノワールとジャン・ヴィゴ
第22回	ロベール・ブレッソン
第23回	ジャック・タチ
第24回	ヌーヴェル・ヴァーグ①概括
第25回	ヌーヴェル・ヴァーグ②映画作家たち
第26回	その他のヌーヴェル・ヴァーグの監督たち
第27回	ヌーヴェルヴァーグ以降のフランス映画
第28回	まとめ
第29回	理解度の確認
第30回	後期の振り返り

授業計画コメント

授業の進み具合、受講者のリアクションを見ながら、上記の予定を若干変更することがある。

授業方法

講義形式で授業を行うが、受講者が自分の考察を発信する機会も設けていきたい。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

事後学習として、授業で取り上げた映画作品を各自で鑑賞する。また、事前にDVDあるいは劇場で指定の作品を見てもらうこともある。これ以外にも授業中で紹介する展覧会などにも足を運ぶことが好ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

成績評価コメント

第2学期(学年末試験):50% 第1学期(学期末試験):50% 成績は基本的に学期末テストで評価する。なお、授業中の私語・遅刻・途中退席などが目立つ学生は点数を大幅に減点することがあるので注意すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

前期末テストの結果は、後期の初回の授業で講評を行う。

教科書

教科書コメント

参考文献

まなざしのエクササイズ,ロズウェル・アンジェ,フィルムアート社,2013,9784845912063
映画とは何か: フランス映画思想史:筑摩叢書,三浦哲哉,9784480016072
映画とは何か(上),アンドレ・バザン,岩波書店,2015,9784003357811
映画とは何か(下),アンドレ・バザン,岩波書店,2015,9784003357828
フランス映画史の誘惑,中条省平,9784087201796

参考文献コメント

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修できるのは、フランス語圏文化学科の1、2年生のみ。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

課程	学部
講義コード	U360202101
科目ナンバリング	036A203
科目名	フランス語圏文化入門(広域文化)
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)
担当者名	澁谷 与文
単位	4
時間割	通年 火曜日 1時限 中央-401
副題	

授業概要

フランス近現代に至る技術・認識・感性の変化についてテーマごとに概観します。

到達目標

フランス近現代の文化と社会を相互に関連づけて理解できる。
現代社会の諸問題について歴史的背景を踏まえて分析できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ワインとビール
第3回	フランスの言語環境
第4回	近代の起源
第5回	ナショナリズム、ユーロペイスム、レジオナリズム
第6回	革命と反動
第7回	宗教改革と民衆の肖像
第8回	女性の人権、マイノリティと連帯
第9回	教育制度と子供の誕生
第10回	近代の教育機関
第11回	小説の世紀
第12回	人間の価値
第13回	ダーウィンと社会ダーウィニズム
第14回	植民地主義とフランコフォニー
第15回	振り返り
第16回	前期の復習

第17回	表象と現実
第18回	印刷術と出版
第19回	オリジナリテ
第20回	パリの歴史
第21回	都市・郊外・地方
第22回	サロンと美術館
第23回	産業革命とフランス1
第24回	産業革命とフランス2
第25回	芸術と科学
第26回	異端と秘密結社
第27回	無罪、冤罪、死刑
第28回	人類の起源と精神医学
第29回	神話と人間
第30回	振り返り

授業計画コメント

授業方法

講義が中心ではありますが、ジェネリックスキルを意識しつつ、学生が書いて・議論して・整理して・振り返る時間を設けます。主体的に学ぶ中で知識の交換と定着を目指しますので、授業への能動的な参加が必要です。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

指定された図書の指定された箇所を図書館・研究室で探して読解しておく(30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	第1学期、第2学期
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	40 %	毎回のリアクションペーパー
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーには下線などの記号や、コメントを付して返却する。
レポートの評価基準は、授業の進捗とともに段階的に解説した後、評価基準表を配布する。

教科書

教科書コメント

参考文献

参考文献コメント その都度指示

履修上の注意 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他 フランス語圏文化学科の学生の1・2年生のみ履修可。但し、1・2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は、履修を認める。

課程	学部
講義コード	U360203101
科目ナンバリング	036A204
科目名	フランス語圏文化入門(文学・思想)
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Literature & Theory)
担当者名	中山 慎太郎
単位	4
時間割	通年 火曜日 4時限 北1-308
副題	フランス文学の歴史

授業概要

中世から現代にいたるフランス語圏の文学の流れをたどりながら、毎回代表的な作品の抜粋を読んでいます。受講者各人が、それぞれの興味に従って読書を広げ、深めていく手がかりとなることを期待しています。

到達目標

1. フランス語圏文学の豊かさと多様性に触れる。
2. フランス語圏文学のおおまかな全体像を把握する。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	中世(1): 聖人伝、武勲詩、トゥルバドゥール
第3回	中世(2): 『トリスタンとイゾー』、ヴィヨン
第4回	16世紀(1): ルネサンスとは?、人文主義とラブレール、モンテーニュ
第5回	16世紀(2): プレイアード派の詩人ロンサール
第6回	17世紀(1): 古典主義とは? —— コルネイユ、ラシーヌ、モリエール1
第7回	17世紀(2): 古典主義とは? —— コルネイユ、ラシーヌ、モリエール2
第8回	17世紀(3): 「我思う、ゆえに我あり」(デカルト)、「人間は考える葦である」(パスカル)
第9回	17世紀(4): 『寓話』(ラ・フォンテーヌ)、『ペロー童話集』(ペロー)
第10回	18世紀(1): 啓蒙思想とは? —— モンテスキュー、デイドロ
第11回	18世紀(2): 啓蒙思想とは? —— ヴォルテール、ルソー
第12回	18世紀(3): 悪女たち —— 『マノン・レスコー』(アヴェ・プレヴォー)、『危険な関係』(ラクロ)
第13回	18-19世紀: 擬古典主義からロマン主義へ —— ロマン主義の先駆者たち、スタール夫人、シャトーブリアン
第14回	19世紀(1): ロマン主義とは? —— ユゴー、ラマルチーヌ、ヴィニー、ミュッセ
第15回	理解度の確認
第16回	19世紀(2): 小説家ユゴーと他のロマン主義の作家たち、スタンダール

第17回	19世紀(3):「人間喜劇」(バルザック)、19世紀の悪女(ファム・ファタル)——『カルメン』(メリメ)
第18回	19世紀(4):『悪の華』、『パリの憂愁』(ボードレール)
第19回	19世紀(5):詩人たちの交感——ヴェルレーヌとランボー、そしてマラルメへ
第20回	19世紀(6):写実主義から自然主義へ——フロベール、ゾラ、モーパッサン
第21回	20世紀前半(1):「20世紀最大の知性」——ヴァレリー
第22回	20世紀前半(2):『失われた時を求めて』(プルースト)
第23回	20世紀前半(3):エスプリ・ヌーヴォーとは?——アポリネールと前衛の芸術家たち、ベル・エポックと女流作家コレット
第24回	20世紀前半(4):「革命」——ダダとシュルレアリスム
第25回	20世紀前半(5):自由を求めて——第二次世界大戦とレジスタンス文学
第26回	20世紀後半(1):実存主義とは?——サルトル、ボーヴォワール、カミュ
第27回	20世紀後半(2):不条理演劇
第28回	20世紀後半(3):ヌーヴォー・ロマンとは?、第二次世界大戦後の詩の状況
第29回	20世紀後半(4):デュラス、クレオールとは?
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

授業計画はあくまで目安ですので、授業の進度、受講者の興味に応じて内容や順序を変更することがあります。

授業方法

テキストを随時配布の上、講義形式で進めます。作品からの抜粋・引用等は日本語訳を用います。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

配布したテキストを事前に読んでおくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	10 %	コメントペーパー
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントペーパーに書かれた疑問や意見に関して、各回の授業の冒頭で回答、コメントします。

教科書

増補 フランス文学案内:岩波文庫,渡辺一夫・鈴木力衛編,岩波書店,1990

教科書コメント

参考文献

フランス文学史,田村毅・塩川徹也編,東京大学出版会,1995

新版 フランス文学史,饗庭孝男ほか編,白水社,1992

はじめて学ぶフランス文学史,横山安由美・朝比奈美知子編著,ミネルヴァ書房,2002

参考文献コメント

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

フランス語圏文化学科の学生の1・2年生に限ります。但し、1,2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は、履修を認めます。

課程	学部
講義コード	U360204101
科目ナンバリング	036A301
科目名	フランス語圏文化講義(言語・翻訳)
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Language & Translation)
担当者名	寺家村 博
単位	4
時間割	通年 木曜日 1時限 中央-508
副題	

授業概要

このクラスでは1年を通してフランス語圏という概念がもつ意味、そしてフランス語圏の国や地域の中で何かを表現するというのがどのような意味を持ちうるのかを探っていきます。具体的には組織としてのフランス語圏の成立過程を学び、西ヨーロッパ、北米、アフリカなどに点在するフランス語圏の国や地域の文化的特徴をテキストを訳読しながら理解していきます。更にフランス語圏の文学作品にもできるだけ多く触れていきます。第2学期には訳読に関連したグループワークなども取り入れていく予定です。そして最終的に受講学生がフランス語圏を通してフランスをあらたに捉え直すという新しい視座を獲得することを目指します。

到達目標

フランスを内からではなく、外から理解する視点を持つことができる。フランス語圏の国々の社会、文化、言語政策などに関する知識を得ることができる。さまざまなタイプのフランス語の文章を翻訳する機会となる。

授業内容

実施回	内容
第1回	第1学期オリエンテーション
第2回	詳細な講義概要、講義の進め方の説明
第3回	プリント1 フランス語圏の成立1
第4回	プリント2 フランス語圏の成立2
第5回	プリント3 世界のフランス語圏を概観する1
第6回	プリント4 世界のフランス語圏を概観する2
第7回	プリント5 西ヨーロッパのフランス語圏1
第8回	プリント6 西ヨーロッパのフランス語圏2
第9回	プリント7 西ヨーロッパのフランス語圏3
第10回	プリント8 アフリカのフランス語圏
第11回	プリント9 北米のフランス語圏
第12回	プリント10 フランス語圏におけるフランス語の使用状況1
第13回	プリント11 フランス語圏におけるフランス語の使用状況2
第14回	理解度の確認

- 第15回 振り返り
- 第16回 第2学期オリエンテーション
- 第17回 グループワーク (西ヨーロッパのフランス語圏に関する発表) 1
- 第18回 グループワーク (西ヨーロッパのフランス語圏に関する発表) 2
- 第19回 グループワーク(西ヨーロッパのフランス語に関する発表) 3
- 第20回 グループワーク(カリブ海のフランス語圏に関する発表)
- 第21回 グループワーク(アフリカのフランス語圏に関する発表)
- 第22回 グループワーク(カナダのフランス語圏に関する発表)
- 第23回 プリント12 カナダのフランス語圏の文学作品を読む1
- 第24回 プリント13 カナダのフランス語圏の文学作品を読む2
- 第25回 プリント14 カナダのフランス語圏の文学作品を読む3
- 第26回 プリント15 カナダのフランス語圏の文学作品を読む4
- 第27回 プリント16 ヨーロッパやアフリカのフランス語圏の文学作品を読む1
- 第28回 プリント17 ヨーロッパやアフリカのフランス語圏の文学作品を読む2
- 第29回 理解度の確認
- 第30回 振り返り

授業計画コメント

授業方法

演習形式で進めていきます。受講学生のクラスへの積極的な参加を期待します。また仏和辞書は必ず毎時間持参すること。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

次回の授業のために配布したプリントは予め日本語に訳しておくこと(約2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テストの返却をおこない、解説をする

教科書

教科書コメント

プリントは授業時に配布する

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360205101
科目ナンバリング	036A302
科目名	フランス語圏文化講義(舞台・映像)
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Theater & Film)
担当者名	中条 省平
単位	4
時間割	通年 火曜日 1時限 中央-402
副題	フランス映画概説

授業概要

リュミエール兄弟による映画の発明から現代まで、フランス映画の歴史をたどる。受講者はフランス語ができるという利点があるので、フランス語の文献を活用して授業内容の深化を図る。

到達目標

単にフランス映画の歴史的概観を体得するのみならず、映画とは何か、表象芸術とは何かという根源的な問題についても思考しうる哲学的、歴史的基礎を身につけてもらいたい。

授業内容

実施回	内容
第1回	リュミエール兄弟
第2回	ジョルジュ・メリエス
第3回	パテとゴーモン
第4回	フィルム・ダール
第5回	マックス・ランデル
第6回	エミール・コール
第7回	アリス・ギイ
第8回	ルイ・フィヤード
第9回	アベル・ガンズ
第10回	アヴァンギャルド映画
第11回	詩的リアリズム
第12回	ルネ・クレール
第13回	ジャック・プレヴェール
第14回	理解度の確認
第15回	自主研究(予備日)
第16回	ジャン・ヴィゴ

第17回	ジャン・ルノワール
第18回	マルセル・カルネ
第19回	ジャック・ベッケル
第20回	ジャン=ピエール・メルヴィル
第21回	ロベール・ブレッソン
第22回	ジャック・タチ
第23回	ジャン・コクトー
第24回	アレクサンドル・アストリュック
第25回	クロード・シャブロル
第26回	フランソワ・トリュフォー
第27回	ジャン=リュック・ゴダール
第28回	エリック・ロメール
第29回	理解度の確認
第30回	自主研究(予備日)

授業計画コメント

以上の予定はあくまでも予定であって、それぞれの説明が予想外に膨らむこともあるであろう。機械的に映画の歴史を図式化することより、映画の醍醐味をできるかぎり生々しく伝えるような授業でありたい。

授業方法

講義形式。フランス語のプリントを配って随時解説する。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

授業中に言及された映画作家、スタッフ、映画作品、映画専門用語などについて、各種辞書や百科事典、映画事典などを丹念に引きながら確認し、理解を深めること。また、授業中に配布され解説されたフランス語文献を復習して、自分でもきちんと意味が分かるようにしておくこと(約1時間半)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書

教科書コメント
とくにない。

参考文献

参考文献コメント
教室で直接指示する。

履修上の注意
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360206101
科目ナンバリング	036A303
科目名	フランス語圏文化講義(広域文化)A
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)
担当者名	野村 正人
単位	4
時間割	通年 火曜日 2時限 中央-303
副題	

授業概要

七月王政期を中心とした、19世紀フランスの諷刺画の歴史を概観する。

到達目標

19世紀フランスの諷刺画の歴史を概観する。表現、出版の自由の戦いの歴史を理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	諷刺画とはなにか(1)
第2回	諷刺画とはなにか(2)
第3回	18世紀までの諷刺画(1)
第4回	18世紀までの諷刺画(2)
第5回	18世紀までの諷刺画(3)
第6回	大革命期の諷刺画(1)
第7回	大革命期の諷刺画(2)
第8回	大革命期の諷刺画(3)
第9回	復古王政期の諷刺画(1)
第10回	復古王政期の諷刺画(2)
第11回	復古王政期の諷刺画(3)
第12回	七月革命と諷刺
第13回	洋梨王の誕生
第14回	洋梨の氾濫
第15回	理解度確認
第16回	シャルル・フィリポンと諷刺新聞(1)

第17回	シャルル・フィリポンと諷刺新聞(2)
第18回	グランヴィルとドーミエ
第19回	体制派の諷刺
第20回	大きな鼻と浣腸器
第21回	九月法と諷刺の禁止
第22回	二月革命期の諷刺画(1)
第23回	二月革命期の諷刺画(2)
第24回	二月革命期の諷刺画(3)
第25回	二月革命期の諷刺画(4)
第26回	1870年以降の諷刺(1)
第27回	1870年以降の諷刺(2)
第28回	1870年以降の諷刺(3)
第29回	まとめ
第30回	理解度確認

授業計画コメント

授業方法

講義を行った後、学生にコメントペーパー提出を求める。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

自分の関心にしたがって、授業の内容を自分でさらに調べてみる。(一時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	45 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントペーパーには適宜授業時に答える。また試験やレポートは採点し、コメントを付して返却。

教科書

教科書コメント

授業時に指示。

参考文献

参考文献コメント

授業時に指示。

履修上の注意

金曜2限「文化講義(広域文化)」(菅野先生)との重複履修不可。履修者数は最大50名。履修希望者が50名を超えた場合には第一回目に選抜を行う。第一回目の授業には必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360206102
科目ナンバリング	036A303
科目名	フランス語圏文化講義(広域文化)B
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)
担当者名	菅野 賢治
単位	4
時間割	通年 金曜日 2時限 西5-202
副題	フランスと東アジア、文化関係史

授業概要

不思議なことに、日本の地でフランスやフランス語圏を興味・研究の対象とする人々は、往々にして、日本以外の東アジア(朝鮮、中国、ヴィエトナム、チベット)が、過去数世紀間、フランスやフランス語圏とのあいだにどのような関係史を築いてきたのか、まったく無知であることが多いものです。あたかも「われわれ」と「西洋」とを繋ぐ思考の回路そのものが、植民地時代の分断統治の痕跡を引きずっているかのごとくです(韓国の政治学者・李用熙(イ・ヨンヒ, 1917-1997)は、この事態を指して「ひまわり現象」と名付けました)。たとえば、稀代の知日派といわれる詩人ポール・クローデルが、中国についてはどのようなことを語っていたのか。女性探検家アレクサンドラ・ダヴィド＝ネエルは、なぜチベットに魅せられたのか。日本軍政下の上海におけるフランス租界は、どのような空気に包まれていたのか…。学習院大学でフランス語圏のことを学ぶ皆さんには、この盲点と苦手意識を克服してもらいたいと思ひ、講師の知識・力量から見てやや手に余る主題ではありますが、19世紀末から説き起こし、東アジアの地域全体がフランスとどのように触れ合ってきたのか、時間軸に沿って勉強することになります。

到達目標

- ・日本を含む東アジア地域の歴史、地理、文化の理解に、フランス語の語学力を応用できるようになる。
- ・日本とフランス・フランス語圏の関係を思考する際に、東アジアを交えた三点観測の視点を導入できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション フランスと日本、フランスと東アジア——関係史再考
第2回	ポール・クローデルの「東洋」
第3回	テキスト講読(ポール・クローデル『七日目の休息』)
第4回	アルベール・カーンと東アジア
第5回	「白禍」と「黄禍」——植民地主義と帝国主義
第6回	テキスト講読(アナトール・フランス『白き石の上にて』)
第7回	テキスト講読(クロード・ファレール『戦闘』)
第8回	フェリシアン・シャレーが見た日帝支配下の朝鮮
第9回	テキスト講読(フェリシアン・シャレー『植民地回想』)
第10回	エギゾティズムとは何か? ——ヴィクトール・セガレンの生涯と業績
第11回	テキスト講読(セガレン『エギゾティズム試論』)
第12回	中国・雲南省、茨中天主堂の歴史

第13回	チベットに魅せられた人々
第14回	テキスト講読(アレクサンドラ・ダヴィド＝ネエル『パリジェンヌのラサ旅行』)
第15回	自主研究
第16回	筆記 キク・ヤマタ『マサコ』、アンドレ・マルロー『人間の条件』、マルグリット・デュラス『太平洋の防波堤』 いずれかをあらかじめ読んでおき、「西洋から見た東洋」という観点から考えたことを記す
第17回	キク・ヤマタを知っていますか？
第18回	テキスト講読(キク・ヤマタ『マサコ』の書評)
第19回	アンドレ・マルローの「東洋」
第20回	テキスト講読(マルロー『人間の条件』)
第21回	北京原人とシトロエン社「黄色の自動車旅行」
第22回	テキスト講読(テイヤール・ド・シャルダンの書簡)
第23回	マルグリット・デュラスのインドシナ体験
第24回	テキスト講読(デュラス『太平洋の防波堤』)
第25回	アンドレ・ヴィオリスの植民地批判、日本批判
第26回	テキスト講読(アンドレ・ヴィオリス『SOSインドシナ』、『日本とその帝国』)
第27回	日中戦争期・上海のフランス租界
第28回	テキスト講読(ジャキノー神父の手記)
第29回	テキスト講読(キク・ヤマタ『中国に千の心を』)
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

授業方法

講義形式です。時代・テーマごとに歴史概説、作家紹介を行った後、必ずフランス語テキストの抜粋を原文で読みます。テキストや資料は、毎回、プリントで配布します。教員の授業ノートをそのままプロジェクターで投射し、それを後日、教員のURLからダウンロードできるようにします。
<http://www17.plala.or.jp/kenjikanno/gakushuin.html>
 ダウンロードの仕方などを一回目の授業で指示しますので、必ず出席してください。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

- ・事前に配布するフランス語テキストを読み、単語の意味を調べておくこと(30～45分)
- ・第二学期の初回に行う筆記に際しては、事前に指定したテキストから一つを読んで、考えをまとめておくこと

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト	30 %	

レポート

レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第2学期1回目の筆記:30%(事前に指定したテキストのなかから1つを選び、夏休み中にしっかり読んでおくこと)

第2学期(学年末試験):70%(扱ったテキストをよく読み、自分自身の感想、意見をわかりやすくまとめてください)

講師が講義中に語ったことをそのまま答案に書き写すのではなく、みずからテキストに触れたときの印象、感想から出発し、自分自身で考えたことをフィードバックして欲しいと思います。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

第2学期1回目の筆記については、2回目の授業の冒頭で総評を行うほか、指定された3つの作品を扱うそれぞれの回でも講評を述べます。

教科書

教科書コメント

教科書は使用しません。資料や講読テキストは毎回プリントで配布します

参考文献

ヨーロッパがみた日本・アジア・アフリカ : フランス植民地主義というプリズムをとおして: 教科書に書かれなかった戦争, 海原峻, 梨の木舎, 1998, 9784816698019

参考文献コメント

必読図書、参考文献は、時代ごと、テーマごとに授業内で紹介します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。受講人数を50人程度にするため、1回目の授業で抽選を行う可能性があります。フランス語圏文化講義(広域文化)Aとの重複履修は不可。

その他

名簿順に座席を固定し、毎回、始業時に出席をチェックします。遅刻ないし欠席が半期で4回(公欠、忌引、交通機関の遅延の場合を除く)に達した学生は学年末試験を受ける資格を失いますので注意してください。

課程	学部
講義コード	U360207101
科目ナンバリング	036A304
科目名	フランス語圏文化講義(文学・思想)
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Literature & Theory)
担当者名	三ツ堀 広一郎
単位	4
時間割	通年 金曜日 4時限 西2-501
副題	20世紀フランス小説の素晴らしき三つの冒険

授業概要

19世紀を通じて練り上げられたリアリズムの表象の枠組みを脱する新たな小説形式の探求という観点から、20世紀の、とくに戦後のフランス小説を検討する。出発点として、カミュの三作品を戦後フランス小説の三つの冒険の原形として捉え、それぞれから形式上の問題を抽出する。1)『異邦人』からは「零度のエクリチュール」や「描写」の問題を、2)『ペスト』からは「歴史＝物語」や「寓話」の問題を、3)『転落』からは「信頼できない語り手」や「語り声」の問題を、それぞれ引き出すことができるだろう。戦後のフランスにあらわれた多様な小説作品を、この三つの問題設定のいずれかのうちに仮説的に囲い込んだうえで考察する。

カミュのほかには扱う予定でいるのは、1)ロブ＝グリエやシモンといった《ヌーヴォー・ロマン》の作家たち、2)トゥルニャックやグラックといった《アレゴリー》の作家たち、3)ベケットやブランショといった《レシ》の作家たち。また時間の許すかぎり、ブルースト、ジッド、セリーヌ、サルトルといった20世紀フランス文学の巨頭にも触れる。小説作品と並行して、関連する批評や文学理論にも言及する。

到達目標

多種多様な20世紀フランス小説についての知識を習得しながら、文学作品を知的に読解するための分析力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	零度のエクリチュール:カミュ『異邦人』(1)
第3回	描写の問題:カミュ『異邦人』(2)
第4回	歴史＝物語:カミュ『ペスト』(1)
第5回	寓意(アレゴリー):カミュ『ペスト』(2)
第6回	信頼できない語り手:カミュ『転落』(1)
第7回	語り声:カミュ『転落』(2)
第8回	現象学と小説:サルトル『嘔吐』
第9回	メタフィクションと紋中紋:ブルースト『失われた時を求めて』とジッド『贗金づくり』
第10回	ヌーヴォー・ロマン(1):ロブ＝グリエ『嫉妬』
第11回	ヌーヴォー・ロマン(2):ロブ＝グリエ『覗くひと』
第12回	ヌーヴォー・ロマン(3):クロード・シモン『フランドルへの道』

- 第13回 ヌーヴォー・ロマン(4):ビュートル『時間割』
- 第14回 ヌーヴォー・ロマン(5)ビュートル『心変わり』
- 第15回 第1学期のまとめ
- 第16回 第2学期の導入
- 第17回 アレゴリー(1):寓意と象徴の問題
- 第18回 アレゴリー(2):ミシェル・トゥルニエ『フライデーあるいは太平洋の冥界』
- 第19回 アレゴリー(3):ミシェル・トゥルニエ『魔王』
- 第20回 アレゴリー(4):ジュリアン・グラック『アルゴールの城にて』
- 第21回 アレゴリー(5):ジュリアン・グラック『シルトの岸边』
- 第22回 文体の冒険:セリーヌをめぐって
- 第23回 文体の冒険:レーモン・クノーをめぐって
- 第24回 レシ(1):ルイ=ルネ・デ・フォレ『おしゃべり』
- 第25回 レシ(2):サミュエル・ベケット『モロイ』
- 第26回 レシ(3):サミュエル・ベケット『名づけえぬもの』
- 第27回 レシ(4):モーリス・ブランショ『謎の男トマ』
- 第28回 レシ(5):モーリス・ブランショの批評
- 第29回 20世紀小説の冒険は終焉したのか?
- 第30回 第2学期のまとめ

授業計画コメント

授業の進展と受講者の理解度に応じて、実施回ごとのテーマは前後したり変更になったりする可能性がある。

授業方法

講義が中心だが、受講者にフランス語テキストの訳読やコメントを求めることがある。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

フランス語テキストを事前にプリントして配布するので、辞書を引きながら読んでくること(1~2時間)。また、授業で扱う作品の邦訳書を事前に読んでおくことが望ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	40 %	

その他(備考欄を参照)

その他(備考欄を参照)		
-------------	--	--

成績評価コメント

第1学期と第2学期に1度ずつ、授業で扱ったテーマに関するレポートを課す。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは授業中にコメントを付けて返却する。

教科書

教科書コメント

授業で扱う作品の抜粋をプリントにして配布する。

参考文献

二十世紀フランス小説:文庫クセジュ,ドミニク・ラバテ,白水社,2008,978-4560509241

参考文献コメント

テキスト以外の参考文献については、教室で適宜指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

授業中の積極的な発言を歓迎する。

課程	学部
講義コード	U360208101
科目ナンバリング	036A401
科目名	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)A
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)
担当者名	志々見 剛
単位	4
時間割	通年 火曜日 3時限 北1-403
副題	プレシューズ研究

授業概要

17世紀に現れた「プレシューズprécieuses」は、本来は趣味と教養を具えてサロンで活躍した才女たちを指すが、モリエールの『滑稽な才女たちLes Précieuses ridicules』(1659)に典型的なように、回りくどい表現を好む鼻持ちならない女性たちとして揶揄の対象にもなった。しかし、彼女たちが主にサロンでの会話を通じて実現した趣味や言語の洗練は、「良き慣用」に基づいた規範的なフランス語の成立にも大きく寄与するものだった。

本授業では、モリエールの『滑稽な才女たち』等の読解を通じ「プレシューズ」について理解を深め(一学期)、その上で実際に「プレシューズ」のもっと目されるテキスト(スキュデリー嬢の抜粋、等)の検討も行う(二学期)。

到達目標

「プレシューズ」に関わるテキストを読解し、論点を理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	テキストの読解と発表
第3回	同上
第4回	同上
第5回	同上
第6回	同上
第7回	同上
第8回	同上
第9回	同上
第10回	同上
第11回	同上
第12回	同上
第13回	同上
第14回	まとめ

第15回	自主研究
第16回	概要の説明
第17回	テキストの読解と発表
第18回	同上
第19回	同上
第20回	同上
第21回	同上
第22回	同上
第23回	同上
第24回	同上
第25回	同上
第26回	同上
第27回	同上
第28回	同上
第29回	まとめ
第30回	自主研究

授業計画コメント

授業方法

演習形式で行い、随時、コメントや解説を加える。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

事前準備(約一時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

割合は目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

適宜、コメントや講評を行う。

教科書

教科書コメント

別途、指定する。

参考文献

参考文献コメント

授業内で指示する。

履修上の注意

発表の無断欠席と、レポート等での不正に対しては、厳正に対処する。

履修者数制限あり。(30名)

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360208102
科目ナンバリング	036A401
科目名	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)B
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)
担当者名	横川 晶子
単位	4
時間割	通年 火曜日 5時限 西2-203
副題	

授業概要

フランス語を日本語に翻訳するための知識と能力を習得するために、第1学期の授業では平易で短い文章を多く訳し、翻訳に関する基礎的な事柄を学習する。第2学期の授業では、フランスで実際に読まれている文章の日本語訳に取り組み、翻訳の実践を試みる。最新のフランス事情を反映するテキストを通じて、フランスのアクチュアリティに触れることも心がける。

到達目標

フランス語と日本語の言語としての本質的な相違点を理解し、翻訳が内包する問題の分析を通じて、翻訳に必要な知識と技術を身につけることができる。また、単なる仏文和訳と翻訳はどう違うのか、良い訳文とはどのようなものか、文章の性格や目的によって訳がどう変わるのかなどを認識することで、実践的な翻訳の能力を高めることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業内容及び授業の進め方についての説明
第2回	人称代名詞
第3回	固有名詞
第4回	前置詞(句)
第5回	接続詞(句)
第6回	関係代名詞
第7回	時制
第8回	会話体の文章
第9回	説明の文章
第10回	日記
第11回	手紙もしくはメールの文章
第12回	平易な小説(1)
第13回	平易や小説(2)
第14回	理解度の確認とまとめ

- 第15回 到達度確認
- 第16回 第1学期レポートについて確認及び解説
- 第17回 料理のレシピ(1)
- 第18回 料理のレシピ(2)
- 第19回 雑誌等の文章(1)
- 第20回 雑誌等の文章(2)
- 第21回 新聞記事(1)
- 第22回 新聞記事(2)
- 第23回 字幕作成(1)
- 第24回 字幕作成(2)
- 第25回 現代小説(1)
- 第26回 現代小説(2)
- 第27回 現代小説(3)
- 第28回 リーディング・レジユメの作成の仕方
- 第29回 理解度の確認とまとめ
- 第30回 到達度確認

授業計画コメント

授業方法

上記の授業内容に沿ったフランス語のテキストを毎回の授業で配布し、訳の担当者を決めます。担当者は次の授業までに、訳文を作成して事前にメールで提出します。次の授業では、講師がテキストについて説明をおこない、提出された訳文を検討すると同時に、訳の担当者や授業参加者のコメントを求めます。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

課題の訳を担当する学生は締切日までに訳文を作成してメールで提出してください。担当でない学生も事前に訳文の作成を試みてください。(1時間～2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

成績評価コメント

試験は実施せず、平常点(授業内の課題による訳文)及びレポート(学期末に実施)により総合的に評価します。テキストの内容を正確に把握し、不明点を調査し、適格な日本語の文章で訳文を作成しているかどうかを評価のポイントとします。また、指定された期限内に訳文を提出することも重視します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

平常の課題については毎回の授業で解説を行いコメントを述べます。第1学期のレポートについては、第2学期の初回授業で解説し、適宜コメントを述べます。

教科書

教科書コメント

毎回の授業でプリントを配布します。

参考文献

参考文献コメント

必要に応じて教室で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。(30名)
第1回目の授業に必ず出席のこと。
履修希望者が30名を超えた場合、初回の授業において以下の優先順位で受講できる学生を決めます。

- 1)「卒業翻訳」を選択した4年生。
- 2)「言語・翻訳」コース所属の4年生
- 3)言語・翻訳」コース所属で、「卒業研究(卒業論文・卒業翻訳)」を予定している3年次の学生。
- 4)その他の3、4年生。

*履修希望者が30名を超えた場合、4)の中で抽選を行います。

その他

課題の訳文をメールにより提出してもらうので、できるだけPC環境を整えておいて下さい。

課程	学部
講義コード	U3602081Z1
科目ナンバリング	036A401
科目名	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)
担当者名	DEMARNE, Marguerite
単位	4
時間割	通年 水曜日 2時限 仏文院生室
副題	

授業概要

Axe du cours : commentaire de texte et dissertation. 1) Le commentaire de texte est une analyse grammaticale et stylistique d'un texte. Cet exercice rigoureux demande l'acquisition d'un raisonnement logique, d'un vocabulaire propre, et d'une expression personnelle qui passe par l'apprentissage de phrases simples ayant un contenu et un sens intelligible pour votre lecteur. Pour y parvenir, nous interrogerons, en classe, inlassablement et rigoureusement des textes.

到達目標

Comment commenter des textes. Envisager des bourses de recherche en France, dans des pays francophones.

授業内容

実施回	内容
第1回	Orientation.Distribution de texte. Analyse du texte.
第2回	Commentaires.Travaux sur table (1) Corrections.
第3回	Commentaires.Travaux sur table (2)Corrections.
第4回	Distribution de texte.Analyse du texte.
第5回	Commentaires.Travaux sur table (1)Corrections.
第6回	Commentaires.Travaux sur table (2)Corrections.
第7回	Exposition de vos analyses en un seul devoir.Corrections.
第8回	Distribution de texte.Analyse du texte.
第9回	Commentaires.Travaux sur table (1)Corrections.
第10回	Commentaires.Travaux sur table (2)Corrections.
第11回	A partir du corpus de textes, envisager une dissertation.Corrections.
第12回	Dissertation.Corrections.
第13回	Distribution de texte.Analyse du texte.
第14回	Commentaires.Travaux sur table (1)Corrections.
第15回	Commentaires.Travaux sur table (2)Corrections.

- 第16回 Distribution de texte.Analyse du texte.
- 第17回 Commentaires.Travaux sur table (1)Corrections.
- 第18回 Commentaires.Travaux sur table (2)Corrections.
- 第19回 A partir du corpus de textes, engager une dissertation.Corrections.
- 第20回 Dissertation.Corrections.
- 第21回 Distribution de texte.Analyse du texte.
- 第22回 Commentaires.Travaux sur table (1)Corrections
- 第23回 Commentaires.travaux sur table (2)Corrections.
- 第24回 Exposition de vos arguments en un seul devoir.Corrections.
- 第25回 Distribution de texte.Analyse du texte.
- 第26回 Commentaires.Travaux sur table (1)Corrections.
- 第27回 Commentaires.Travaux sur table (2)Corrections
- 第28回 Exposition de vos raisonnements en un seul devoir.Corrections.
- 第29回 A partir du corpus de textes, construire une dissertation.Corrections.
- 第30回 Dissertation.Corrections.

授業計画コメント

授業方法

Lire.

使用言語

日本語		英語		日本語・英語以外	1
-----	--	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

Lire.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Distribution de photocopies de textes, pour la plupart contemporains.Analyse et explication rigoureuses de ces textes afin de fuir les contre-sens. Confrontation, validation ou infirmation des jugements, des opinions, selon ces textes. Recherche d'un vocabulaire propre. Apprentissage d'une phrase construite avec un sens intelligible par tous.Ce travail se fera ensemble, nous ferons notre

propre animation et ambiance !

教科書

教科書コメント

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U3602081Z2
科目ナンバリング	036A401
科目名	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)
担当者名	中尾 和美
単位	4
時間割	通年 火曜日 4時限 西2-406
副題	

授業概要

フランス語で書かれた言語学関連の短い論文を読むことで、論文フランス語に慣れると同時に、言語学の第一歩となるような視点を養う。今年度は、多言語使用や翻訳について、主として言語景観(街中の看板や標識、広告など)におけるフランス語を中心に考察を深めたい。

到達目標

論文フランス語を通してフランス語の知識を増やすこと、書き言葉のフランス語に慣れること、フランス語らしいフランス語が書けるようになること、ことば一般に対する興味を深めることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	借用語・借用表現
第3回	広告の言語と外国語の使用
第4回	固有名詞の翻訳
第5回	多言語使用に関する論文講読(1)
第6回	多言語使用に関する論文講読(2)
第7回	多言語使用に関する論文講読(3)
第8回	多言語使用に関する論文講読(4)
第9回	多言語使用に関する論文講読(5)
第10回	多言語使用に関する論文講読(6)
第11回	発表(1)
第12回	発表(2)
第13回	発表(3)
第14回	授業の総括
第15回	予備日
第16回	日本の街中に見られるフランス語

第17回	多言語表記の標識や看板
第18回	言語景観に関する論文の講読(1)
第19回	言語景観に関する論文の講読(2)
第20回	言語景観に関する論文の講読(3)
第21回	言語景観に関する論文の講読(4)
第22回	言語景観に関する論文の講読(5)
第23回	言語景観に関する論文の講読(6)
第24回	言語景観に関する論文の講読(7)
第25回	言語景観に関する論文の講読(8)
第26回	発表(1)
第27回	発表(2)
第28回	発表(3)
第29回	授業の総括
第30回	予備日

授業計画コメント

授業方法

一方的な講義ではなく、参加者との議論を交えて授業を進めていく。またフランス語で書かれた論文を精読することで、考察を深めると同時に、論文フランス語のスタイルに慣れ、かつフランス語での読解力を養うことを目標とする。定期的に参加者の発表を予定しているため、積極的に議論に参画し、かつ言語調査をする意欲を持っていることが望まれる。参加者の興味によっては、柔軟に授業の内容を変更することもあるので、各自興味と意欲を持って授業に臨んでほしい。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

論文の担当箇所を調べるだけでなく、論文全体を読んで内容を理解するようにしておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):(テキストの予習、授業における参画、発表。)単なる出席ではなく、授業への参加態度も成績評価の対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートについては、コメント、返却する。

教科書

教科書コメント

授業で講読する論文は、授業中に指示する。

参考文献

Les voix de la ville,L.-J. Calvet,Editions Payot & Rivages,1994

Linguistic landscapes,P. Backhaus,Multilingual Matters,2007

ミモロジック,G.ジュネット,書肆風の薔薇,1991

Dire presque la même chose,U.Eco,Le livre de poche,2010

翻訳,M. ウスティノフ ,白水社,2008

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360209101
科目ナンバリング	036A402
科目名	フランス語圏文化演習(舞台・映像)A
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)
担当者名	大原 宣久
単位	4
時間割	通年 月曜日 1時限 西1-305
副題	ヌーヴェル・ヴァーグとその前後

授業概要

映画作品について考察し、論じるためには、映像(=演技や演出、構図等)を見たり、ストーリー全体を分析したりするだけでなく、ストーリーの構成要素ともいえるひとつひとつの台詞に注目したり、さらには作品そのものから離れて、制作者の証言や、批評家の言説に注目したりする必要もあるでしょう。この授業では、上に挙げたようなさまざまなアプローチから映画について考えてみたいと思います。フランス語で書かれたテキストの読解がおもな作業となりますが、それをきっかけに自分自身の考察を深めることもめざしてください。

取り上げる映画は、前期はエリック・ロメールやフランソワ・トリュフォーといった、1960年代に一世を風靡したヌーヴェル・ヴァーグ世代の監督たちの作品、後期はさかのぼって、彼らの源流のひとつともいえるジャン・ルノワールの諸作品を予定しています。

なお、この授業は講義ではなく演習ですので、教員が一方的になにかを教えるのではなく、履修学生ひとりひとりの積極的な参加があつて成立するものであることを留意ください(訳読のみならず、グループワーク、発表の機会も設ける予定です)。

到達目標

映画の批評やシナリオ、インタビューなどのフランス語に親しみ、辞書を引けばそうした文章を理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明——ガイダンスとフランス映画史概説
第2回	トリュフォー『大人は判ってくれない』(1)
第3回	トリュフォー『大人は判ってくれない』(2)
第4回	トリュフォー『突然炎のごとく』(1)
第5回	トリュフォー『突然炎のごとく』(2)
第6回	トリュフォー『突然炎のごとく』(3)
第7回	ロメール『海辺のポーリーヌ』(1)
第8回	ロメール『海辺のポーリーヌ』(2)
第9回	ロメール『木と市長と文化会館』(1)
第10回	ロメール『木と市長と文化会館』(2)
第11回	ゴダール『アルファヴィル』(1)
第12回	ゴダール『アルファヴィル』(2)

第13回	ゴダール『アルファヴィル』(3)
第14回	まとめ
第15回	到達度確認
第16回	ルノワール『トニ』(1)
第17回	ルノワール『トニ』(2)
第18回	ルノワール『トニ』(3)
第19回	ルノワール『ピクニック』(1)
第20回	ルノワール『ピクニック』(2)
第21回	ルノワール『大いなる幻影』(1)
第22回	ルノワール『大いなる幻影』(2)
第23回	ルノワール『大いなる幻影』(3)
第24回	ルノワール『ラ・マルセイエーズ』(1)
第25回	ルノワール『ラ・マルセイエーズ』(2)
第26回	ルノワール『恋多き女』(1)
第27回	ルノワール『恋多き女』(2)
第28回	ルノワール『恋多き女』(3)
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

授業計画コメント

上記の計画は履修学生の理解度等をかんがみ、変更になる場合があります。

授業方法

毎回担当者を決めて、フランス語テキストの翻訳を準備してもらう。授業ではその内容の確認、解説をおこなうが、ほかの学生に対しても質問をすることがある。

その内容に関連して、映画作品についての発表も交代でおこなってもらう(グループワークもあり)。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

事前に指示した映画に関するフランス語のテキストを日本語に翻訳しておくこと(約1時間半)。
授業で扱う映画の全編を事前に見ておくことも歓迎。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	25 %	
学年末試験(第2学期)	25 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	50 %	

その他(備考欄を参照)

その他(備考欄を参照)		
-------------	--	--

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%
学期末試験:前後期各25%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中におこなった発表については、かならず論評をおこなう。

教科書

映画——フランスの鏡,Jean-Marc RAYNAL、黒川学,駿河台出版,初,2002,4411013266

教科書コメント

前期は上記の教科書+プリントを使用する。後期はプリントのみを使用する。

参考文献**参考文献コメント**

Jean Renoir :Ecrits (1926-1971)(Ramsay)ほか多数。

履修上の注意

履修者数制限あり。(30名)
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360209102
科目ナンバリング	036A402
科目名	フランス語圏文化演習(舞台・映像)B
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)
担当者名	畠山 香奈
単位	4
時間割	通年 月曜日 4時限 南1-207
副題	ラシーヌ『フェードル』を読む

授業概要

ジャン・ラシーヌの悲劇『フェードル(1677年)』を精読する。

到達目標

韻文で書かれたフランス語のテキストに親しむ。
17世紀フランスの文化的な背景を理解する。
フランス語の発音規則をマスターする。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(フランス演劇史概説、文法的解説等)
第2回	第1幕(1)
第3回	第1幕(2)
第4回	第1幕(3)
第5回	第1幕(4)
第6回	第1幕(5)
第7回	第1幕(6)
第8回	第2幕(1)
第9回	第2幕(2)
第10回	第2幕(3)
第11回	第2幕(4)
第12回	第2幕(5)
第13回	第2幕(6)
第14回	総括
第15回	振り返り
第16回	第3幕(1)

第17回	第3幕(2)
第18回	第3幕(3)
第19回	第3幕(4)
第20回	第3幕(5)
第21回	第4幕(1)
第22回	第4幕(2)
第23回	第4幕(3)
第24回	第4幕(4)
第25回	第4幕(5)
第26回	第5幕(1)
第27回	第5幕(2)
第28回	第5幕(3)
第29回	総括
第30回	振り返り

授業計画コメント

以上はあくまでも予定であり、実際の進め方とは変更が生じる場合がある。

授業方法

第1学期は輪読形式で授業を進める。
第2学期は訳読と解説を参加者に担当してもらい演習形式で授業を行う。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

授業前にテキストの該当箇所を読んでおくこと(約1時間)。
分からない単語があれば意味を事前に調べてくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	80 %	
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

訳読中心の授業のため、授業内で訳や発言内容に対してコメントを行う。
また、必要に応じて適宜資料を配布する。

教科書

Phèdre: GF Dossier, Jean Racine, FLAMMARION, 2017

教科書コメント

参考文献

フェードル アンドロマック: 岩波文庫(32-511-4), ラシーヌ, 岩波書店, 1993
Théâtre poésie: Bibliothèque de la Pléiade, Jean Racine, Gallimard, 1999
フランス17世紀演劇事典, オディール・デュスッド、伊藤洋, 中央公論新社, 2011
Dictionnaire de Furetière, Antoine Furetière

参考文献コメント

その他の参考文献については、初回の授業で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり(30名)。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U3602091Z1
科目ナンバリング	036A404
科目名	◇フランス語圏文化演習(舞台・映像)
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)
担当者名	大野 麻奈子
単位	4
時間割	通年 火曜日 3時限 仏文院生室
副題	フェドーからベケットへ

授業概要

ジョルジュ・フェドーらの幾つかの作品の抜粋を読み、ヴォードヴィルについての理解を深めたうえで、サミュエル・ベケットの『芝居』を読み解くことを試みる。

到達目標

現代演劇の系譜の理解。

授業内容

実施回	内容
第1回	サミュエル・ベケットについて。
第2回	ジョルジュ・フェドーとヴォードヴィル概説。
第3回	授業内では、配布したプリントの読解が中心。フランス語で書かれた作品や研究書の抜粋を読む。
第4回	映像資料も必要に応じて視聴する。
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	

- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

授業計画コメント

授業方法

講義ではなく、演習。グループワークを採り入れる(発表の際)可能性もある。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

配布されたプリントの予習。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

夏季レポートは後期始めにコメントをつけて返却する。

教科書

教科書コメント

プリントを配布する予定。

参考文献

参考文献コメント

授業時に指示をする。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360210101
科目ナンバリング	036A403
科目名	フランス語圏文化演習(広域文化)A
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)
担当者名	滝沢 明子
単位	4
時間割	通年 月曜日 3時限 南1-207
副題	写真と文学

授業概要

本授業では、写真がテーマとなっているテキストを講読しつつ、写真論やイメージ論、写真と文学の関係について考察を深める。今年度は、Jean-Philippe ToussaintのL'Appareil-photoを読む。

到達目標

- 1) フランス語で書かれたテキストの読解力をつける。
- 2) 写真論、写真と文学の関係について理解し、自ら説明できるようになる。
- 3) 現代フランス語圏の文学、とくにトゥーサンについて知識を得る。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	写真と文学について その1
第3回	写真と文学について その2
第4回	作家Jean-Philippe Toussaintについて
第5回	L'Appareil-photoという作品について
第6回	講読と発表
第7回	講読と発表
第8回	講読と発表
第9回	講読と発表
第10回	講読と発表
第11回	講読と発表
第12回	講読と発表
第13回	Toussaintの他の作品紹介 その1
第14回	前期のまとめ
第15回	自主研究
第16回	翻訳について

第17回	講読と発表
第18回	講読と発表
第19回	講読と発表
第20回	講読と発表
第21回	講読と発表
第22回	講読と発表
第23回	講読と発表
第24回	講読と発表
第25回	講読と発表
第26回	講読と発表
第27回	講読と発表
第28回	Toussaintの他の作品紹介 その2
第29回	授業のまとめ
第30回	自主研究

授業計画コメント

授業方法

演習形式。担当者は翻訳・解説を発表する準備をして臨むこと。
また何回か、グループ(またはペア)ワークでの翻訳作業を試みる予定。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

該当する箇所について、辞書を引いてテキストを読み、翻訳の準備をしておく。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	100 %	

成績評価コメント

2/3以上出席することが求められる。
また、前期、後期それぞれ1回以上授業内で発表を担当することが必須である。
その上で、前期は翻訳試験、後期はレポートを課す。それぞれ50%の評価配分である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

翻訳は授業内、レポートは必要に応じて掲示等でフィードバックを行う。

教科書

L'Appareil-photo, Jean-Philippe Toussaint, Minuit, 1988, 978-2707320056

教科書コメント

参考文献

参考文献コメント

授業内で適宜指示する。

履修上の注意

履修者制限あり。(30名)

履修希望者は初回授業にて決定するので、必ず遅刻せず出席すること。

その他

課程	学部
講義コード	U360210102
科目ナンバリング	036A403
科目名	フランス語圏文化演習(広域文化)B
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)
担当者名	中村 隆之
単位	4
時間割	通年 木曜日 5時限 西2-406
副題	文学の旅 アフリカ・カリブ編

授業概要

Lire est voyager. 読むことは旅することだ。そう書いたル・クレジオにならって、この授業では文学を通じた旅に出かけます。私たちの旅の友は、エメ・セゼールの詩です。私たちの読むセゼールの長編詩「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalは、「Au bout du petit matin...」というフレーズから始まります。夜がちょうど明けて朝が始まるころの描写ですが、みなさんならこれをどう訳しますか。まずはセゼールの言葉とともにカリブ海に出かけ、アフリカを旅しましょう。ときには寄り道をして、カリブ海やアフリカのさまざまな詩にも触れてみます。言葉の魔術を味わいましょう。

到達目標

フランス語で詩の言葉を味わう知力と感性を磨くこと、この授業で扱うテキストのなかで気に入ったフレーズを暗唱すること、カリブ海とアフリカの広大な文学の領野を一人で旅する力を身につけること、すなわち本を読むことがさらに好きになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	エメ・セゼールを学ぶ
第3回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(1)
第4回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(2)
第5回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(3)
第6回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(4)
第7回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(5)
第8回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(6)
第9回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(7)
第10回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(8)
第11回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(9)
第12回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(10)
第13回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(11)
第14回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(12)

第15回	予備日
第16回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(13)
第17回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(14)
第18回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(15)
第19回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(16)
第20回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(17)
第21回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(18)
第22回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(19)
第23回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(20)
第24回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(21)
第25回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(22)
第26回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(23)
第27回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(24)
第28回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(25)
第29回	「帰郷ノート」Cahier d'un retour au pays natalを読む(26)
第30回	予備日

授業計画コメント

授業方法

訳読のスタイルで、セゼールの詩を読解していきます。非常に長い詩のため、読み終えるのに1年間かかるかもしれないため、実施回の内容はすべて「帰郷ノート」読解にしています。ですが、ときに、暗唱してみたり、ときに、関連する映画を見たり、ときに、セゼールのインタビューやその他の詩人の詩に寄り道しながら、旅の終着を目指していきます。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

訳読担当者には、訳文作成にあたって下調べをしてもらいます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	25 %	
レポート	25 %	
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

「中間テスト」は、詩の一部の暗唱かディクテを考えています。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内でフィードバックを行います。

教科書

Cahier d'un retour au pays natal,Aimé Césaire,Presence Africaine

教科書コメント

参考文献

フランス語圏カリブ海文学小史,中村隆之,風響社, 2011

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限(30名)がありますので、第1回目の授業には必ず出席してください。

その他

課程	学部
講義コード	U360210103
科目ナンバリング	036A403
科目名	フランス語圏文化演習(広域文化)C
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)
担当者名	飛嶋 隆信
単位	4
時間割	通年 火曜日 2時限 西2-503
副題	20世紀フランス文化史

授業概要

20世紀フランスの政治・文化史に関するテキストの講読を通じて、フランスの社会や文化の変遷を、芸術や都市に関わるトピックを軸に理解する。

到達目標

これまでに習得したフランス語文法の知識をもとに、論文を読解し、20世紀フランスの社会や文化に対する理解を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	20世紀初頭のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(1)
第2回	20世紀初頭のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(2)
第3回	20世紀初頭のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(3)
第4回	20世紀初頭のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(4)
第5回	20世紀初頭のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(5)
第6回	20世紀初頭のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(6)
第7回	20世紀初頭のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(7)
第8回	両大戦間期のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(1)
第9回	両大戦間期のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(2)
第10回	両大戦間期のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(3)
第11回	両大戦間期のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(4)
第12回	両大戦間期のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(5)
第13回	両大戦間期のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(6)
第14回	両大戦間期のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(7)
第15回	第1学期末試験
第16回	1950～70年代のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(1)

第17回	1950～70年代のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(2)
第18回	1950～70年代のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(3)
第19回	1950～70年代のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(4)
第20回	1950～70年代のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(5)
第21回	1950～70年代のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(6)
第22回	1950～70年代のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(7)
第23回	20世紀末のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(1)
第24回	20世紀末のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(2)
第25回	20世紀末のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(3)
第26回	20世紀末のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(4)
第27回	20世紀末のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(5)
第28回	20世紀末のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(6)
第29回	20世紀末のフランスの社会および文化に関するテキストの講読(7)
第30回	第2学期末試験

授業計画コメント

授業方法

毎回の授業で、指名された受講生は仏文和訳および内容の解説を行う。教員は、必要に応じてプロジェクトに画像を提示しつつ、詳細な解説を行う。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

各回に講読する仏文(1～2頁程度)について、必ず予習が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト	0 %	
レポート	0 %	
小テスト	0 %	
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)	0 %	

成績評価コメント

学期末試験(1学期および2学期)では、授業で講読した仏文を正確に理解できているかが採点基準となる。平常点は出席数、予習の有無、受講態度で評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

第1学期末試験は、第2学期の初回に採点済答案を返却する。

教科書

Le Temps des Masses : Le Vingtième siècle : Histoire Culturelle de la France (4), Jean-Pierre RIOUX et Jean-Francois SIRINELLI, Editions du Seuil, 1, 1998, 2-02-013537-X

教科書コメント

講読する範囲のみ、適宜コピーを配布する。

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

毎回必ず予習をすること。
履修者数制限あり。(30名)
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

授業初回時に指示する。

課程	学部
講義コード	U360211101
科目ナンバリング	036A404
科目名	フランス語圏文化演習(文学・思想)A
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)
担当者名	吉田 加南子
単位	4
時間割	通年 木曜日 1時限 西1-201
副題	20世紀の詩

授業概要

シュペルヴィエルの作品を精読し、その自然観や宇宙的な交感の世界を考える。また詩と散文のジャンルについて検討し、理解を深める。あわせて公正な研究のための資料の扱い方や引用の方法、また記録の管理について学ぶ。

到達目標

シュペルヴィエルの詩と散文を読みこなして、表現方法を分析でき、その世界の構築・展開を読みとり、生と死、自然との親和力について論を展開することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	シュペルヴィエルの世界概要
第2回	時代背景及び同時代の詩人たち
第3回	「沖の少女」演習。作品の方法について
第4回	「沖の少女」演習。海について
第5回	「沖の少女」演習。航海について
第6回	「沖の少女」演習。記憶の問題
第7回	「沖の少女」演習。言葉と声について
第8回	「沖の少女」まとめ
第9回	「ヴァイオリンの声の少女」演習。少女という存在
第10回	「ヴァイオリンの声の少女」演習。喪失について
第11回	「ヴァイオリンの声の少女」まとめ
第12回	「未知の友」演習。動物について
第13回	「未知の友」演習。魚と水について
第14回	まとめ
第15回	到達度確認
第16回	「世界の寓話」演習。詩集の構成について

- 第17回 「世界の寓話」演習。発話者としての神について
- 第18回 「混沌と創造」演習
- 第19回 「神が人間を創造する」演習
- 第20回 「神が人間に語る」演習
- 第21回 「神の悲しみ」演習
- 第22回 上記4詩篇のまとめ
- 第23回 詩と散文の違いについて
- 第24回 シュペルヴィエルの詩型の変化について
- 第25回 「空の跛行者」演習。影について
- 第26回 「空の跛行者」演習。家族について
- 第27回 「空の跛行者」演習。「聞く」ということについて
- 第28回 シュペルヴィエルの詩における愛と祈りについて
- 第29回 まとめ
- 第30回 到達度確認

授業計画コメント

授業方法

演習を基本軸とし、あわせて問題を発見する作業、グループディスカッションを行う。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

授業前にテキストの該当箇所を読み(1時間～2時間)、授業後は、授業中にふれた問題点について復習し、まとめる(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	35 %	授業態度、授業時の発表
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業の進展状況によっては、若干の調整がありえます

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験の答えは返却し、授業内で解説する。

教科書

教科書コメント

使用テキスト及び参考文献については授業時に指示する。

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限あり。(30名)
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360211102
科目ナンバリング	036A404
科目名	フランス語圏文化演習(文学・思想)B
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)
担当者名	土橋 友梨子
単位	4
時間割	通年 金曜日 3時限 西1-208
副題	ヴォルテールの『寛容論』を読む

授業概要

18世紀の作家・思想家であるヴォルテールの『寛容論』(1763)を読みます。この作品は、無実であるにもかかわらず、息子殺しの罪で有罪判決を下され、処刑されたジャン・カラスの名誉を回復するための再審中に出版されました。授業では、作品が執筆された時代の歴史的・宗教的背景や文化・社会・出版の歴史等を学びながら訳読を進めていきます。

到達目標

フランス語で書かれたテキストを読解する力をつけます。
『寛容論』が執筆された18世紀フランスについての理解を深め、当時の社会が抱えていた問題点を各自が提起し、議論できるようにします。
また、レポートを執筆するときに知っておくべき規則(参考文献の取り扱いや引用の仕方等)についても学びます。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、予習の仕方等の説明)
第2回	18世紀フランス文学について
第3回	ヴォルテールとその作品について
第4回	『寛容論』という作品について
第5回	『寛容論』第一章講読①
第6回	『寛容論』第一章講読②
第7回	『寛容論』第一章講読③
第8回	『寛容論』第一章講読④
第9回	『寛容論』第一章講読⑤
第10回	『寛容論』第二章講読①
第11回	『寛容論』第二章講読②
第12回	『寛容論』第二章講読③
第13回	『寛容論』第二章講読④
第14回	『寛容論』第二章講読⑤

第15回	総括
第16回	『寛容論』第三章講読①
第17回	『寛容論』第三章講読②
第18回	『寛容論』第三章講読③
第19回	『寛容論』第三章講読④
第20回	『寛容論』第三章講読⑤
第21回	『寛容論』第四章講読①
第22回	『寛容論』第四章講読②
第23回	『寛容論』第四章講読③
第24回	『寛容論』第四章講読④
第25回	『寛容論』第四章講読⑤
第26回	『寛容論』第五章講読①
第27回	『寛容論』第五章講読②
第28回	『寛容論』第五章講読③
第29回	『寛容論』第五章講読④
第30回	総括

授業計画コメント

以上の授業計画はあくまでも目安です。学生の関心・興味に応じて変更が生じる場合があります。

授業方法

演習形式。

初めの数回は講師による説明を行い、その後は参加者に訳読と解説を行っていただきます。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

授業の参加者は、辞書で単語の意味や文法事項を丁寧に調べ、事前に該当箇所の翻訳を準備しておくこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート	35 %	
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	30 %	出席、クラス参加を重視します
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

前期は試験の代わりに夏休みにレポートを課します。
後期は一年のまとめとして試験を行います。

教科書

Traité sur la tolérance, Voltaire, Gallimard, Folio plus collège, 2017, 2072730795

教科書コメント

参考文献

参考文献コメント

授業内で適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。(30名)
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360211103
科目ナンバリング	036A404
科目名	フランス語圏文化演習(文学・思想)C
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)
担当者名	前山 悠
単位	4
時間割	通年 水曜日 4時限 西1-305
副題	

授業概要

ジョルジュ・ペレック(1936-1982)の小説・自伝・エッセーからいくつか抜粋して講読しつつ、関連する文学・芸術・社会的問題を幅広く考察する。

到達目標

フランス語での正確な読解力を養いつつ、主に現代フランス文学に関する理解を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	“La Disparition”講読①: 文学的規則
第3回	“La Disparition”講読②: メタテキスト
第4回	“La Disparition”講読③: メタテキスト(続き)
第5回	“La Disparition”講読④: 諸言語での翻訳
第6回	“La Disparition”講読⑤: まとめ
第7回	“Un Cabinet d’amateur”講読①: 文学と絵画
第8回	“Un Cabinet d’amateur”講読②: 紋中紋の技法
第9回	“Un Cabinet d’amateur”講読③: 紋中紋の技法(続き)
第10回	“Un Cabinet d’amateur”講読④: まとめ
第11回	“La Vie mode d’emploi”講読①: 小説の成り立ち
第12回	“La Vie mode d’emploi”講読②: 文学史上の位置づけ
第13回	担当者による発表①
第14回	担当者による発表②
第15回	前期のまとめ
第16回	“W ou le souvenir d’enfance”講読①: 自伝の問題

第17回	“W ou le souvenir d'enfance”講読②:自伝の問題(続き)
第18回	“W ou le souvenir d'enfance”講読③:自伝の問題(続き)
第19回	“W ou le souvenir d'enfance”講読④:ユダヤ人問題
第20回	“W ou le souvenir d'enfance”講読⑤:ユダヤ人問題(続き)
第21回	“W ou le souvenir d'enfance”講読⑥:ユダヤ人問題(続き)
第22回	“Espèces d'espaces”講読①:「日常」の問題
第23回	“Espèces d'espaces”講読②:「日常」の問題(続き)
第24回	“Espèces d'espaces”講読③:「日常」の問題(続き)
第25回	映像作品を見る①
第26回	映像作品を見る②
第27回	担当者による発表①
第28回	担当者による発表②
第29回	予備日
第30回	後期のまとめ

授業計画コメント

授業方法

講読に並行して周辺知識の解説を加えていく。各学期末に課題に応じて発表を行ってもらう。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

次回講読範囲を読んでくる(約1時間半)。担当者は訳を作成する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	レポートは後期授業期間中に提出してもらう。
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中の解説とともに進行。

教科書

教科書コメント

毎回プリントを配布する。

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限あり(30名)。
第一回目の授業に必ず出席すること。

その他

課程	学部
講義コード	U3602111Z1
科目ナンバリング	036A404
科目名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)
担当者名	鈴木 雅生
単位	4
時間割	通年 金曜日 4時限 仏文院生室
副題	マルセル・ブルースト研究

授業概要

20世紀文学の頂点とも言われるブルーストの『失われた時を求めて』、この長大な小説の冒頭部「コンブレ」を読む。重要な場面を選んで精読しながら、この作家の特徴を理解するとともに、『失われた時を求めて』という小説の全体像を把握することを試みる。

到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、文化的歴史的背景とともに理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	作家および作品についての解説
第3回	「目覚め」(1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第4回	「目覚め」(2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第5回	「幻燈」(1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第6回	「幻燈」(2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第7回	「就寝時のキス」(1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第8回	「就寝時のキス」(2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第9回	「プチット・マドレーヌ」(1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第10回	「プチット・マドレーヌ」(2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第11回	「レオニ叔母のハーブティー」(1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第12回	「レオニ叔母のハーブティー」(2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第13回	「読書について」(1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第14回	「読書について」(2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第15回	まとめ

第16回	後期ガイダンス
第17回	「コンブレーの二つの“方”」(1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第18回	「コンブレーの二つの“方”」(2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第19回	「メゼグリーズの方」(1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第20回	「メゼグリーズの方」(2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第21回	「ゲルマントの方」(1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第22回	「ゲルマントの方」(2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第23回	「文学的才能の欠如」(1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第24回	「文学的才能の欠如」(2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第25回	「マルタンヴィルの鐘塔」(1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第26回	「マルタンヴィルの鐘塔」(2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第27回	「目覚め」(1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第28回	「目覚め」(2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第29回	予備日
第30回	まとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、受講者の関心や授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

演習形式の授業であるので、大筋を説明した後は、各自にテキストを分担してもらいながら授業を進める。単なる訳読ではなく、担当した箇所分析やコメントを求め、必要に応じてテキスト外の資料も参照することとなるだろう。最終的には各々の関心のある観点からレポートをまとめてもらう。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

教科書

Du côté de chez Swann,Proust,Larousse,Petits Classiques,2010

教科書コメント

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U3602111Z2
科目ナンバリング	036A404
科目名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)
担当者名	MARE, Thierry
単位	4
時間割	通年 水曜日 3時限 仏文院生室
副題	Théâtre de Paul Claudel (4)

授業概要

Ce cours prend la suite du Séminaire de l'année dernière. Après "L'Otage" (1908), nous nous intéresserons à la deuxième pièce du "Cycle des Coufontaines", "Le Pain dur", écrite entre 1913 et 1915, publiée à la N.R.F. en 1918. Des trois pièces qui composent la trilogie, celle-ci est la plus âpre et, dans l'œuvre de Claudel, ce qu'on peut imaginer de plus proche du réalisme balzacien.

到達目標

Ce cours est destiné aux étudiants intéressés par le théâtre moderne aussi bien que par la poésie française du début du XXème siècle, que celle-ci soit chrétienne ou non : la perspective religieuse n'ayant ici de sens que dans la mesure où elle permet d'éclairer certains aspects du texte claudélien.

授業内容

実施回	内容
第1回	La pièce fera l'objet d'analyses successives, à raison d'une scène par séance. Ce rythme ne doit cependant pas être contraignant.
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

授業計画コメント

授業方法

Je m'efforcerai de livrer à chaque fois une analyse aussi détaillée que possible des circonstances historiques, particulièrement importantes et complexes dans le cas du Pain dur, ainsi que des enjeux littéraires et d'apporter toutes les informations (culturelles, littéraires, linguistiques) susceptibles d'éclairer l'intelligence de cette œuvre.

使用言語

日本語		英語		日本語・英語以外	1
-----	--	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

Les étudiants pourront, s'ils le désirent, préparer le texte avant chaque cours et en chercher le vocabulaire dans un dictionnaire. La poésie de Claudel est difficile : souvent les mots n'y ont pas le sens qu'ils devraient ! Les préparations peuvent donc s'avérer décevantes...

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

成績評価コメント

Exposés : 100% Chaque étudiant sera tenu de procéder oralement, en français et devant ses camarades, à une explication de texte sur un passage que je lui aurai assigné.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Des commentaires sur le travail effectué seront faits à chaque participant.

教科書

L'Otage / Le Pain dur / Le Pere humilié : Folio, Paul Claudel, Gallimard, 1972, 9782070361700

教科書コメント

N'importe quelle autre édition me conviendra tout aussi bien ! Celle-ci a l'avantage de présenter l'ensemble du Cycle des Coûfontaines.

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360302101
科目ナンバリング	036B406
科目名	文献調査演習
英文科目名	Research and Documentation
担当者名	CARTON, Martine
単位	4
時間割	通年 水曜日 1時限 中央-505
副題	Recherches en français.

授業概要

レポートや卒業論文を書くためには文献を探すことが重要です。文献を探すにはインターネットが便利ですが、使いこなすことはできていますか。この演習では、受講生が必要としているフランスに関する文献をインターネットで検索する実習を行います。対象とする文献には、日本の図書館やインターネット上にある、本、論文、記事、インターネットサイトの情報などを含みます。受講者は、自分に関するレポートや卒業論文のテーマを考えておいてください。インターネット初心者も歓迎します。

到達目標

Choisir un sujet de recherches et apprendre à traiter et présenter ses résultats à la classe

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の説明と参加する学生による自分のテーマの紹介
第2回	Choix du sujet de recherches
第3回	Choix du sujet de recherches
第4回	Recherches bibliographiques
第5回	Recherches bibliographiques
第6回	Choix d'un livre en relation avec le sujet choisi
第7回	Choix d'un livre en relation avec le sujet choisi
第8回	Rédaction d'une fiche de lecture
第9回	Rédaction d'une fiche de lecture
第10回	Choix d'une page Internet en relation avec le sujet choisi
第11回	Choix d'une page Internet en relation avec le sujet choisi
第12回	Présentation de la page Internet
第13回	Présentation de la page Internet
第14回	まとめ
第15回	自主研究

第16回	Choix du sujet de la présentation orale
第17回	Choix du sujet de la présentation orale
第18回	Choix du sujet de la présentation orale
第19回	Préparation de la présentation orale
第20回	Préparation de la présentation orale
第21回	Préparation de la présentation orale
第22回	Préparation de la présentation orale
第23回	Présentation orale
第24回	Présentation orale
第25回	Présentation orale
第26回	Présentation orale
第27回	Présentation orale
第28回	Présentation orale
第29回	Préparation du résumé de la présentation orale
第30回	自主研究

授業計画コメント

授業方法

Chaque étudiant travaillera sur son propre sujet et présentera ses résultats de recherches à toute la classe

使用言語

日本語		英語		日本語・英語以外	1
-----	--	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

Préparation de 20-30 minutes avant chaque cours.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	80 %	
小テスト	20 %	
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):20% Fiche de lecture, présentation orale:80%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les fiches de lecture seront corrigées et rendues aux étudiants, les présentations orales seront corrigées et notées à l'oral.

教科書

教科書コメント

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限あり。(20名)
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360303101
科目ナンバリング	036B104
科目名	フランス語実習A
英文科目名	Practice in the French language
担当者名	大野 麻奈子
単位	4
時間割	通年 木曜日 3時限 西2-406
副題	TCF受験に向けて:基礎から実践へ

授業概要

フランス語能力試験TCF (Test de Connaissance du Français)対策を通じてフランス語力を伸ばすことを目指す授業。

TCFの試験はcompréhension écrite/compréhension orale/structure de la langueという3つの部分から成るが、今年度は読解力を中心にしつつ、他の2つの部分も力を伸ばすことを目指す。基礎的な問題演習を繰り返すほか、フランスのテレビニュースなどを視聴して理解することに挑戦するなどの実践的な演習も行う予定。

到達目標

- TCFのレベルB2程度(またはそれ以上)の読解力:日常生活の中で目にする短文(メモや手紙など)、雑誌・新聞などの記事で比較的短めのものなら意味を把握できる力。
- TCFのレベルB2程度(またはそれ以上)の聴き取り力:短い日常会話や街の中で耳にするアナウンスなどを理解し、ラジオ・TVなどのゆっくりめで比較的短いニュースや特集などの内容もほぼ把握することができる力。
- 文を読み解いたり、聴き取って理解するために必要な知識・教養を深めることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	TCFについておよび授業の説明。
第2回	TCFの模試を授業内で取り組み、試験の傾向の理解に努める。
第3回	以降、問題演習に実践的な演習を交えての授業を行う。
第4回	TCF直前の回には1回分の授業を使って模試を行う。
第5回	模試の後には答え合わせと解説を中心とした授業を行う。
第6回	第一回TCFの直後には、試験振り返りを行う。各受験者の感想をふまえて、以降の授業内容も修正する可能性がある。
第7回	後期も、前期と同様、基礎的な問題演習に実践的な演習を交えての授業をする。
第8回	まとめ
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	

- 第14回
- 第15回
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

授業計画コメント

授業計画については受講者のフランス語能力などによって変更する可能性もある。

授業方法

読解教材については、受講者たちは担当箇所を音読後、日本語訳したり、問題を解いたりする。音声教材については、受講者たちは担当箇所について聞きとれたことを教師に伝える。最終的には聞きとった文章を日本語訳する。一回の授業において、なるべく受講者全員に発言の機会を与えながら授業を進める。また、語彙力を伸ばし、定着させるために定期的に単語・熟語表現などの小テストも行う。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

聴き取りについては、週1回の授業では到底間に合わず、力をつけることはできない。文法力、読解力をつけることによって聴き取り能力もある程度は伸びるが、やはり毎日、できる限り多くの聴覚資料を耳にすることは必要不可欠である。TCF対策CDなど、教員が準備して配布する資料を毎日聞き続けることを推奨する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	

平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)

平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):20% 第1学期(学期末試験):20% 小テスト:10% TCFは6月と12月(時期に多少の変動性はあるが)に本学を会場とした試験が行われる予定であるが、そのうち最低限1回は必ず受験することが受講の前提となっている。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

TCFの結果は、3項目のバランス等を見て解説をする。

教科書

教科書コメント

授業時に指示する。

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360303102
科目ナンバリング	036B104
科目名	フランス語実習B
英文科目名	Practice in the French language
担当者名	CARTON, Martine
単位	4
時間割	通年 水曜日 2時限 中央-505
副題	Ecrire un résumé en français

授業概要

Lire, comprendre et résumer un texte en français.

到達目標

フランス語学習者は、フランス語で書かれた文章を理解したとき、2つの方法でそれを表現できます。一つの方法は、その文章を日本語に翻訳すること、もう一つの方法は、フランス語で要約を作ることです。この授業では、フランス語で書かれた文章を読んで、フランス語で要約を作ります。ここで言う要約とは、もとのフランス語の文章のポイントを短く(およそ25%くらい)まとめることです。

フランス語で要約するときの要点は次の通りです。

1. もとの文章のポイントを含んでいること
2. 長さの短い文であること
3. 全体が文としてまとまっていること

Cours utile pour préparer le Delf A1, A2, B1, B2

http://www.delfdalf.jp/generalites_jp.htm

授業内容

実施回	内容
第1回	explication du cours et de la technique du résumé
第2回	technique du résumé / analyse d'un exemple de résumé
第3回	technique du résumé / analyse d'un exemple de résumé Texte 1, préparation : lecture
第4回	résumé texte 1
第5回	résumé texte 1
第6回	résumé texte 1
第7回	texte 2 : lecture / analyse
第8回	résumé texte 2
第9回	résumé texte 2
第10回	résumé texte 2
第11回	texte 3 : lecture / analyse
第12回	résumé texte 3
第13回	résumé texte 3

第14回	résumé texte 3
第15回	授業のまとめ
第16回	texte 4 : lecture / analyse
第17回	résumé texte 4
第18回	résumé texte 4
第19回	résumé texte 4
第20回	texte 5 : lecture / analyse
第21回	résumé texte 5
第22回	résumé texte 5
第23回	résumé texte 5
第24回	texte 6 : lecture / analyse
第25回	résumé texte 6
第26回	résumé texte 6
第27回	résumé texte 6
第28回	texte 7 : lecture / analyse
第29回	résumé texte 7
第30回	授業のまとめ

授業計画コメント

授業方法

文章のポイントを明確にするためには次のことをします。

1. 文章を段落に分けること
2. 段落の中心文を見つけること
3. 自分のことばでまとめること

ここで、中心文とは、段落のなかで、その段落の内容をもっともよく表わしている文のことで、主に主張や意見、考えをあらわします。中心文ではない文は、具体例やくわしい説明、理由などです。

文章の要約をするときには、自分のことばでまとめます。もとの文章のなかにある文や語句をつなぎあわせただけでは、要約とはいえません。

自分のことばでまとめるときには、次の点に注意します。

1. 考えや意見を残して、事実や出来事は削除
2. 長さが長い文は、修飾語句を削除してみる
3. 複雑な文は、二つの文に分けてから考える
4. 内容のくり返しは、ひとつの文にまとめる
5. まとめや結論がはっきり分かるように書く

使用言語

日本語		英語		日本語・英語以外	1
-----	--	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

文章を読んで、意味のわからない単語の意味を調べる。文章を段落に分けること。段落の中心文を見つけること。

成績評価の方法・基準

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):60% 第2学期(学年末試験):20% 第1学期(学期末試験):20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les résumés seront corrigés et rendus aux étudiants.

教科書

教科書コメント

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限あり。(20名)
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360303103
科目ナンバリング	036B104
科目名	フランス語実習C
英文科目名	Practice in the French language
担当者名	川口 覚子
単位	4
時間割	通年 月曜日 2時限 中央-503
副題	TCF 試験準備実習

授業概要

TCF(フランス語能力試験)の受験を目指しながら、フランス語の能力を総合的にのばすことを目指す授業です。受講者は全員、TCFを今年度中に少なくとも一回は受験することが前提となっています。学習院大学では、年二回のTCF試験を行っています。(受験料補助あり。)
TCFの試験は、1.聞き取り 2.フランス語の構造, 3.短いテキストの理解力の三部構成からなっています。

この授業を受講される学生は、2年以上のフランス語学習経験のある人が対象となっており、聞き取り、文法力、読解力の側面が要求されます。

到達目標

TCF試験対策用の問題を参考にしながら、傾向をつかめるようにします。

授業内容

実施回	内容
第1回	TCF試験の対策を踏まえながら授業を進めていきます。授業内容は聞き取り、穴埋め問題、読解テキストを交互に行っていく予定です。
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	

- 第15回
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

授業計画コメント

授業方法

TCF試験に向けた聞きとり練習(簡単な会話を聞き取って、聞こえたままを発音してみる)。さらに、その聞き取ったものを文字にしてみる練習もしていただきます。毎回、一回以上は学生に答えていただくことになるでしょう。

聞き取りに関しては、完璧に答えられるに越したことはないですが、意味や構文が分からなくても、まずは音をひろって聞こえたとおりに積極的に答えてみてください。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

ほぼ毎回1度限りの練習なので、学習した単語や表現を復習してください。課題が出る場合もあります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

成績評価コメント

評価配分はあくまでも参考程度であり、平常点などを加味し、総合的に評価します。TCF試験を最低一回受けること。(年に二回あります)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験は実施後に採点して返却します。

教科書

教科書コメント

そのつどプリントを配布します。

参考文献

参考文献コメント

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

課程	学部
講義コード	U360300101
科目ナンバリング	036B405
科目名	論文指導演習A
英文科目名	Practice in thesis writing
担当者名	横川 晶子
単位	2
時間割	第1学期 火曜日 4時限 北1-306
副題	

授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方や論文の形式、作成方法を実践的に学ぶ。

到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、卒業論文などを執筆できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の内容及び授業の進め方についての説明
第2回	日本語の表記に関する基本的な注意事項を学ぶ
第3回	論理的な文章の書き方に関する基本的な事柄を学ぶ
第4回	論理的な文章を要約する
第5回	論文のテーマを選ぶ
第6回	参考文献を探す
第7回	参考文献目録の書き方を学ぶ
第8回	テキスト批評の方法を学ぶ
第9回	論文の構成を考える

- 第10回 引用及び注について学ぶ
- 第11回 序論及び結論の書き方を学ぶ
- 第12回 フランス語の文章の書き方に関する基本的な事柄を学ぶ
- 第13回 フランス語の要旨の書き方を学ぶ
- 第14回 総括
- 第15回 自主研究

授業計画コメント

授業方法

各回の授業の内容に即して具体的な例をあげながら説明をおこない、内容に沿ったレポート課題を複数回出す。提出されたレポートをもとに、補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

配布する資料やプリントは次の授業までに読んで内容を理解しておくこと。授業期間中に複数回レポート課題を出すので、締切日までに提出すること。(2~3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	80 %	
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験は実施せず、複数回のレポート課題及び授業中の応答から総合的に判断して評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートはコメントを付与して返却し、授業内で説明を行う、もしくは個人的にアドバイスを与える。

教科書

教科書コメント

授業中に随時プリントを配布する。

参考文献

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。 第1回目の授業に必ず出席のこと。
履修できるのは、主に卒業論文、卒業翻訳、卒業演習を履修する資格がある4年生の学生。「論文指導演習B」との重複履修は不可。また平成26年度以前に「論文指導演習(4単位)」の単位を修得した者の履修は認めない。

その他

メールにWord文書を添付する形でレポートを提出してもらうので、各自PC環境を整えておくこと。

課程	学部
講義コード	U360300102
科目ナンバリング	036B405
科目名	論文指導演習B
英文科目名	Practice in thesis writing
担当者名	横川 晶子
単位	2
時間割	第2学期 火曜日 4時限 北1-306
副題	

授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方や論文の形式、作成方法を実践的に学ぶ。

到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、卒業論文などを執筆できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の内容及び授業の進め方についての説明
第2回	日本語の表記に関する基本的な注意事項を学ぶ
第3回	論理的な文章の書き方に関する基本的な事柄を学ぶ
第4回	論理的な文章を要約する
第5回	論文のテーマを選ぶ
第6回	参考文献を探す
第7回	参考文献目録の書き方を学ぶ
第8回	テキスト批評の方法を学ぶ
第9回	論文の構成を考える

- 第10回 引用及び注について学ぶ
- 第11回 序論及び結論の書き方を学ぶ
- 第12回 フランス語の文章の書き方に関する基本的な事柄を学ぶ
- 第13回 フランス語の要旨の書き方を学ぶ
- 第14回 総括
- 第15回 自主研究

授業計画コメント

授業方法

各回の授業の内容に即して具体的な例をあげながら説明をおこない、内容に沿ったレポート課題を複数回出す。提出されたレポートをもとに、補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。

使用言語

日本語	1	英語		日本語・英語以外	1
-----	---	----	--	----------	---

準備学習(予習・復習)

配布する資料やプリントは次の授業までに読んで内容を理解しておくこと。授業期間中に複数回レポート課題を出すので、締切日までに提出すること。(2~3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	80 %	
小テスト		
平均点(出席、クラス追加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験は実施せず、複数回のレポート課題及び授業中の応答から総合的に判断して評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートはコメントを付与して返却し、授業内で説明を行う、もしくは個人的にアドバイスを与える。

教科書

教科書コメント

授業中に随時プリントを配布する。

参考文献

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修できるのは、主に3年次の学生。「論文指導演習A」との重複履修は不可。また平成26年度以前に「論文指導演習(4単位)」の単位を修得した者の履修は認めない。

その他

メールにWord文書を添付する形でレポートを提出してもらうので、各自PC環境を整えておくこと。